

# ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type - CA • User's Manual

## オフィスシリーズ Type - CA

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。

## ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

## 安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



### 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



### 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



### 警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

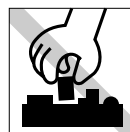
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



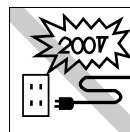
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



表示されている電源(交流100V)以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



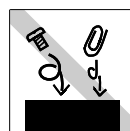
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

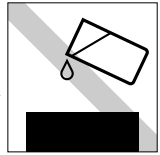
感電・火災の原因となります。



## ⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。  
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

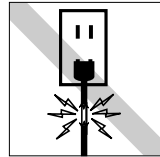


破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

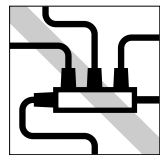
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

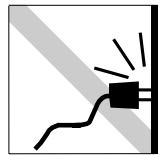
家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



付属のACアダプタを分解しないでください。

火傷や、化学物質による被害の原因となります。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

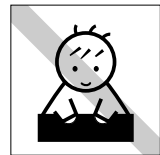
感電・火傷の原因となります。



## ⚠ 注意

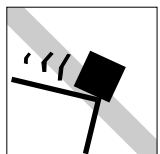
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



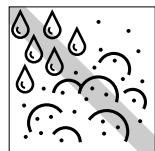
不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



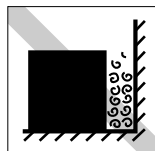
## ⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。  
感電・火災の危険があります。

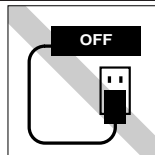


本製品の通風孔をふさがないでください。  
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。  
次の点に注意して設置してください。

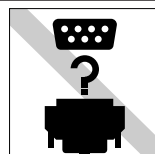
- ・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
- ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
- ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



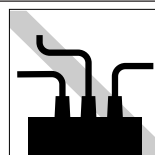
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。  
配線を誤ると、火災の危険があります。



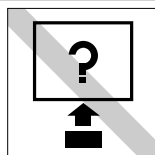
FAXモデムカードの取り外し作業は、本製品の内部が高温時には行わないでください。  
火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



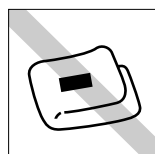
本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



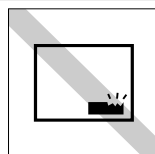
ACアダプタは、指定のコンピュータ以外には使用しないでください。  
火傷・火災の危険があります。



ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。  
火傷・火災の危険があります。



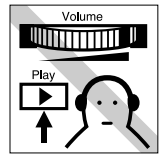
破損したACアダプタを使用しないでください。  
火傷・火災の危険があります。



## ⚠ 注意

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量で聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。

肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状が、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。

誤ってこれらのディスプレイを接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。





---

## 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

---

## コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

---

## BIOSの設定

「CMOS Setupユーティリティ」を使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

---

## こんなときは

困ったときの確認事項と対処方法について説明します。

---

## 付録

お手入れ方法、ハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法などについて説明します。

---

# 目次

マニュアル中の表記について	(9)
---------------	-----

製品保護上の注意	(11)
----------	------

使用・保管時の注意	(11)
記録メディア	(12)
マウス	(13)

## 使い始めるまでの準備

ご使用の前に	2
--------	---

ご使用前の確認事項	2
コンピュータを使い始めるまでの手順	3
システムの特長	4
添付ソフトウェアの概要	5

各部の名称と働き	9
----------	---

コンピュータの設置	11
-----------	----

電源の入れ方とWindowsの セットアップ	16
---------------------------	----

電源を入れる前に	16
電源の入れ方とWindowsの起動	17
Windows使用時の確認事項	18

WindowsMeインストールモデルの セットアップ	21
-------------------------------	----

WindowsMeのセットアップ	21
セットアップ終了後の作業	22
WindowsMe起動ディスクの作成	23

Windows98インストールモデルの セットアップ	24
-------------------------------	----

Windows98のセットアップ	24
セットアップ終了後の作業	26

Windows98起動ディスクの作成	27
--------------------	----

Windows2000インストールモデルの セットアップ	28
---------------------------------	----

Windows2000のセットアップ	28
セットアップ終了後の作業	30
セットアップブートディスクの作成	31

WindowsNT4.0インストールモデルの セットアップ	33
----------------------------------	----

WindowsNT4.0のセットアップ	33
ネットワークドライバのインストール	35
Service Pack6aのインストール	36
セットアップ終了後の作業	37

電源の切り方	38
--------	----

WindowsMeの終了と電源の切り方	38
Windows98の終了と電源の切り方	39
Windows2000の終了と電源の切り方	39
WindowsNT4.0の終了と電源の切り方	40
リセット	41

## コンピュータの基本操作

キーボードを使う	44
----------	----

キーの種類と役割	44
----------	----

マウスを使う	48
--------	----

マウスの操作	48
マウスの設定変更	48

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う	49
-----------------------	----

FDのセットと取り出し	50
FDのフォーマット	51
データのバックアップ	52
ライトプロテクト(書き込み禁止)	52





## こんなときは

<b>困ったときに</b>	112
コンピュータ本体の不具合 .....	112
省電力機能に関する不具合 .....	114
キーボードの不具合 .....	115
マウスの不具合 .....	116
ディスプレイの不具合 .....	117
FDDの不具合 .....	119
HDDの不具合 .....	120
CD-ROMドライブの不具合 .....	121
アプリケーションソフトの不具合 .....	122
メモリの不具合 .....	123
周辺機器の増設に関する不具合 .....	123
プリンタの不具合 .....	123
スピーカの不具合 .....	123
FAXモデムの不具合 ( FAXモデム機能搭載モデル ).....	124

<b>警告メッセージが表示されたら</b>	127
-----------------------	-----

## 付録

<b>お手入れ</b>	130
本機のお手入れ .....	130
マウスのお手入れ .....	130
<b>ATコマンドの使用 ( FAXモデム機能搭載モデル )</b>	132
<b>FAXモデムカードを取り外すには ( FAXモデム機能搭載モデル )</b>	133
作業時の注意 .....	133
FAXモデムカードの取り外し .....	134

<b>HDDを購入時の状態に戻す</b>	136
----------------------	-----

必要なメディア .....	136
HDDを購入時の状態に戻す順番 .....	137
HDDを購入時の状態に戻す場合の注意 ..	138
リカバリの実行 .....	141
マウスドライバのインストール .....	142
FAXモデムドライバのインストール ( WindowsMeインストールモデル )..	143
FAXモデムドライバのインストール ( Windows98インストールモデル )..	144
FAXモデムドライバのインストール ( Windows2000インストールモデル )..	145
FAXモデムドライバのインストール ( WindowsNT4.0インストールモデル )..	147
各種ドライバのインストール .....	148

<b>HDD領域の変更</b>	149
-----------------	-----

MS-DOS領域の種類 .....	149
HDD領域の変更 .....	150
既存領域の削除 .....	151
MS-DOS領域の作成 .....	153
MS-DOS領域のフォーマット .....	156

<b>コネクタ仕様</b>	157
---------------	-----

<b>機能仕様一覧</b>	160
---------------	-----

<b>用語集</b>	161
------------	-----

<b>索引</b>	168
-----------	-----

# マニュアル中の表記について

本書では、次のような記号を使用しています。

## 安全に関する記号



この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 一般情報に関する記号



制限事項です。  
機能または操作上の制限事項を記載してあります。



参考事項です。  
覚えておくと便利なことを記載してあります。



説明文が次ページに続くことを示します。







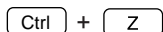
参照ページを示します。





操作手順です。  
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  
 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。



+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。  
この例では、 を押したまま  を押します。

## 名称の表記

本書では、コンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD  
FD  
FDD

ハードディスクドライブ  
フロッピーディスク  
フロッピーディスクドライブ

## オペレーションシステムに関する記述

本書では、オペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

WindowsMe  
Windows98  
Windows2000  
WindowsNT4.0

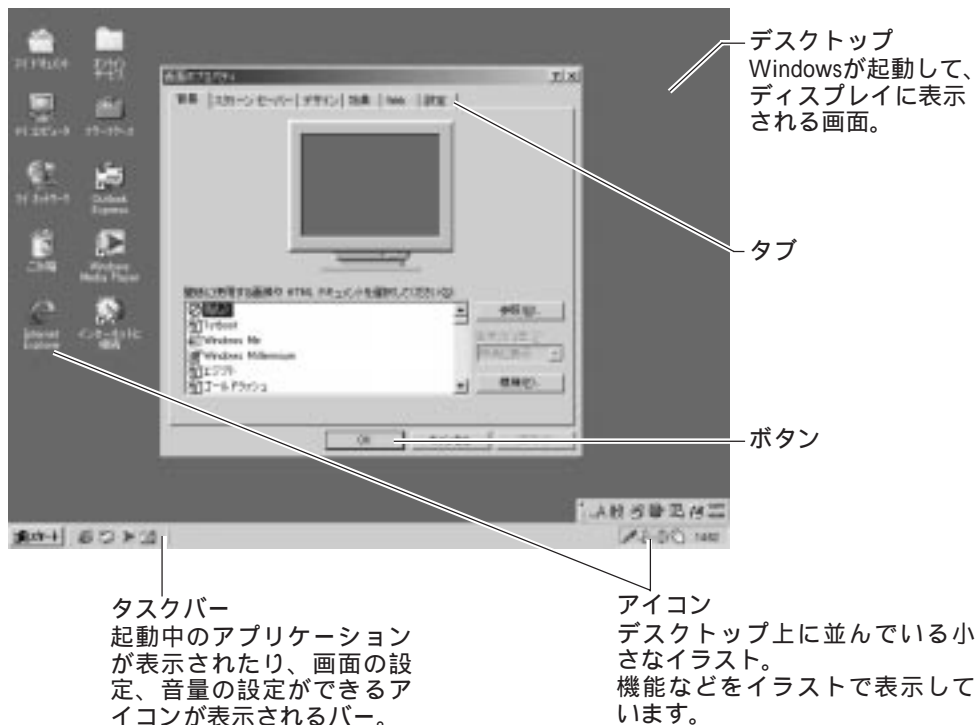
Microsoft® Windows® Millennium Edition  
Microsoft® Windows® 98 Operating system  
Microsoft® Windows® 2000 Professional  
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating system  
Version 4.0

MS-DOS

Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

## Windowsの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

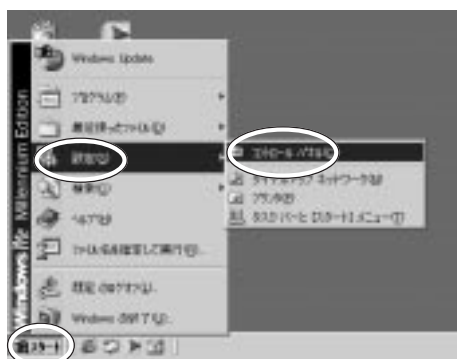


## Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] をクリックします。

実際の操作 : **スタート** をクリックします。



記載例 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

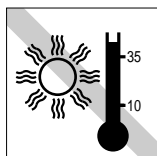
② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

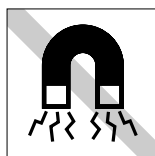
# 製品保護上の注意

## 使用・保管時の注意

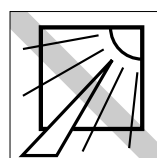
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



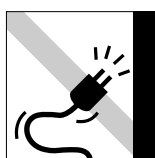
温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10～35です。



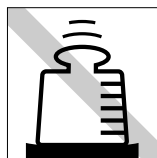
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、フロッピーディスクなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



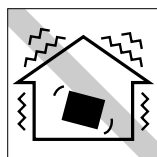
電源ケーブルが抜けやすい所（ケーブルに足が引っかけやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



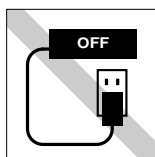
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。重圧により、故障や誤動作の原因となります。機材の上に載せられるディスプレイの重さは14kgまでです。



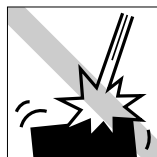
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



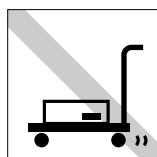
電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。電源スイッチを切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺装置（HDDなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



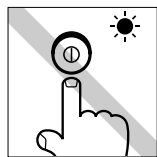
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブル、FD、CD-ROMなどは取り外してください。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



アクセスランプ点灯中は、コンピュータの電源スイッチを押したり、リセットしないでください。

## 記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。  
記録メディアの種類は、次のとおりです。

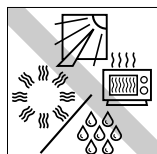
FDなど

FD

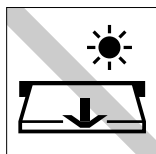
CD-ROM・DVD-ROMなど

CD

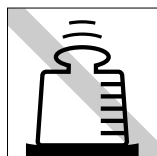
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



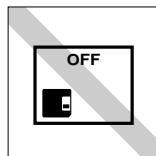
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



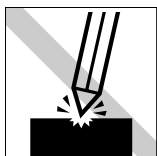
アクセスランプ点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源スイッチを押したり、リセットをしないでください。



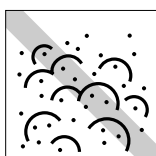
上に物を載せないでください。



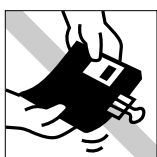
使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



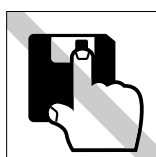
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



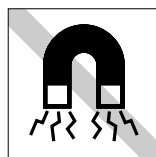
クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



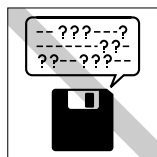
アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。FD



磁性面にホコリや水を付けないでください。  
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

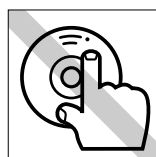


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。FD

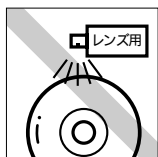


何度も読み書きしたFDは使わないでください。  
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

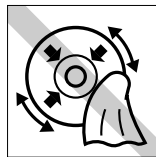
FD



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD



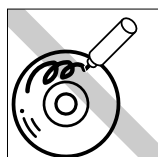
レコードのように回転させて拭かないでください。CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD



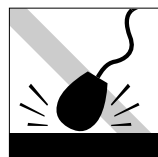
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。CD



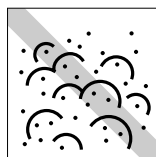
信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。CD

## マウス

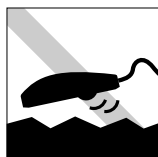
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



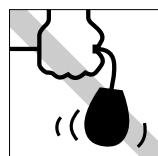
ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



マウスボールを素手で触らないでください。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。





# 使い始めるまでの 準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

# ご使用前に

## ご使用前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

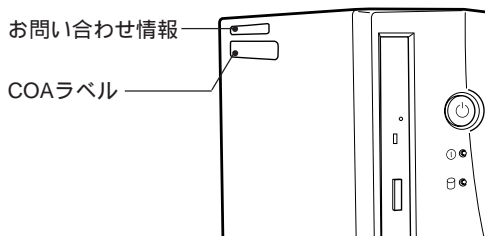
### お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社へのサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際にこれらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

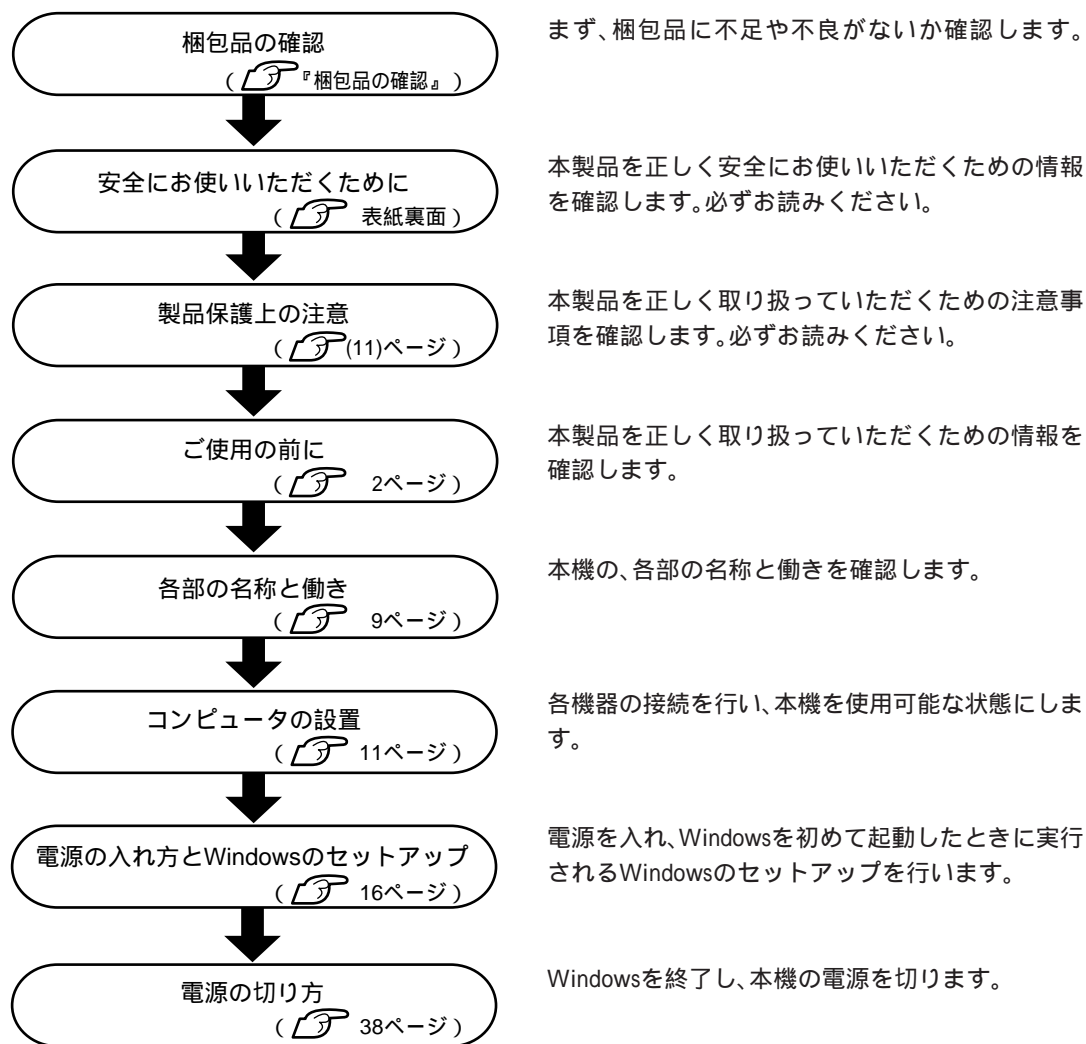
### COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



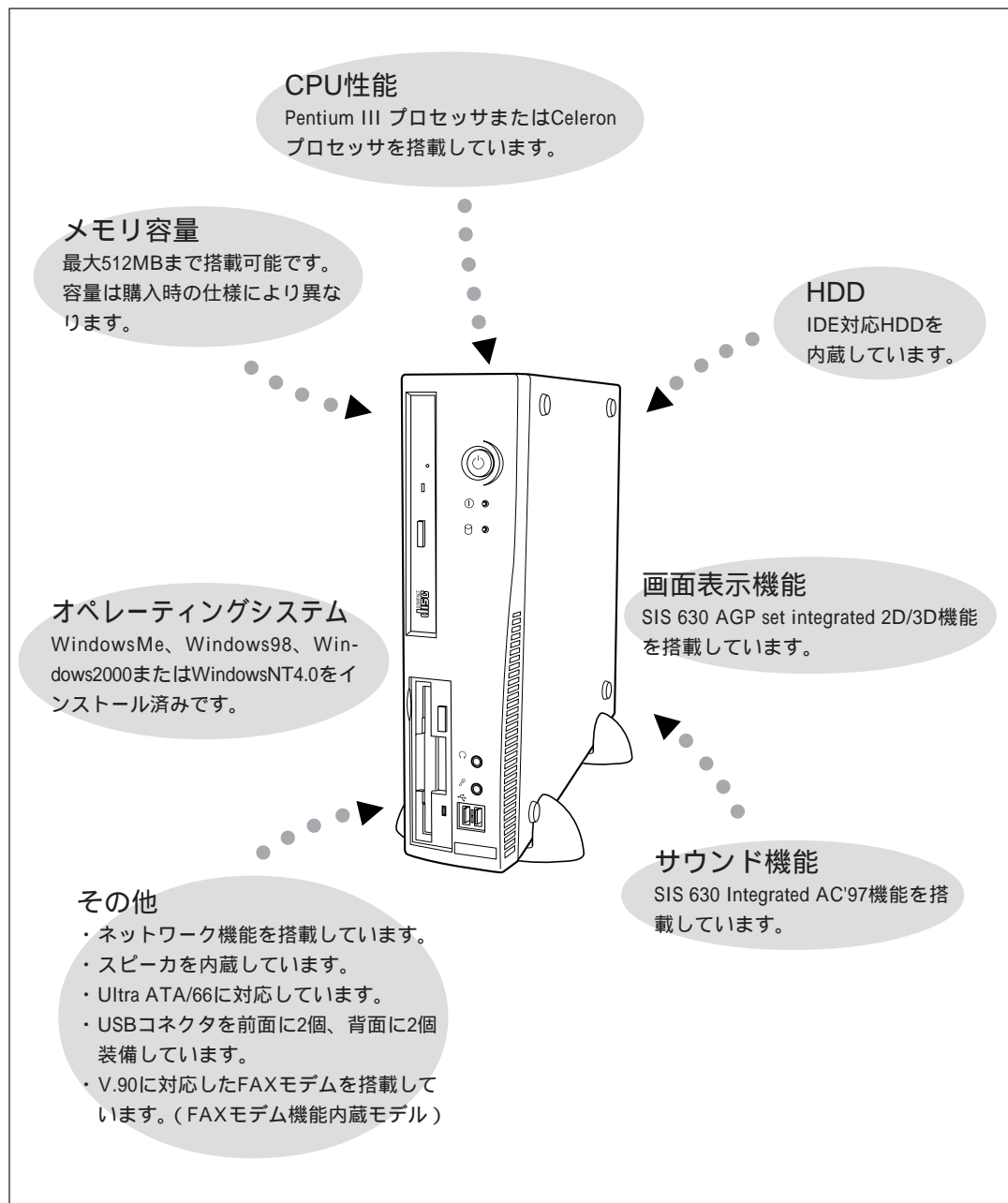
## コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。






## システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



## 添付ソフトウェアの概要













本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時の仕様によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。

記号の見方	
インストール状態	添付状態
 : 内蔵HDDにインストールされています。	 : ディスクが添付されています。
 : インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。	

### WindowsMeインストールモデル

WindowsMe Windowsは、最新のものがインストールされています。  『Windowsクイックスタートガイド』	
マウスドライバ ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。	
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。	
モデムドライバ(FAXモデム機能搭載モデル) FAXモデム機能を使用するためのデバイスドライバです。	
VirusScan for Windows 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。  『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアルファイル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	

## Windows98インストールモデル

Windows98 Windowsは、最新のものがインストールされています。  『Windowsファーストステップガイド』	
マウスドライバ ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1. 25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。	
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。	
モデムドライバ( FAXモデム機能搭載モデル ) FAXモデム機能を使用するためのデバイスドライバです。	
VirusScan for Windows 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。  『VirusScan for Windowsユーザーズガイド( 電子マニュアル )』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル( PDFファイル ) 「ユーザーズマニュアルファイル( 本書 )」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	

## Windows2000インストールモデル

<p>Windows2000</p> <p>Windowsは、最新のものがインストールされています。</p> <p>📖『Windowsクイックスタートガイド』</p>	
<p>IDEドライバ</p> <p>メインボード上のデバイスが正常に使用できるようにするドライバです。</p>	
<p>マウスドライバ</p> <p>ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>ディスプレイドライバ</p> <p>Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>サウンドドライバ</p> <p>音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>3モードFDDドライバ</p> <p>1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。</p>	
<p>ネットワークドライバ</p> <p>ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>モデムドライバ( FAXモデム機能搭載モデル )</p> <p>FAXモデム機能を使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>VirusScan for Windows</p> <p>最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。</p> <p>📖『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』</p>	
<p>Adobe Acrobat Reader</p> <p>様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。</p>	
<p>マニュアル( PDFファイル )</p> <p>「ユーザーズマニュアルファイル(本書)」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。</p>	

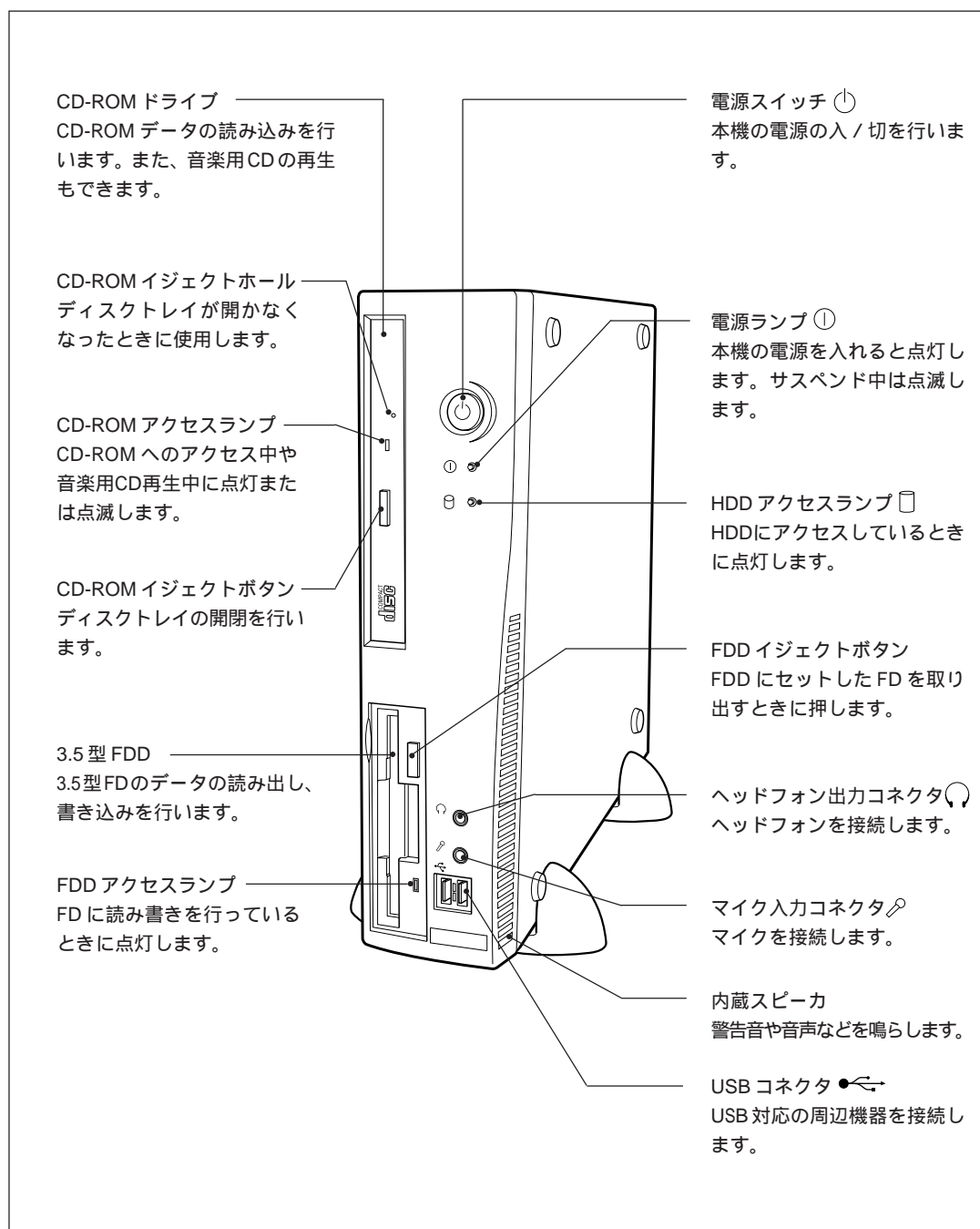
## WindowsNT4.0インストールモデル

WindowsNT4.0 WindowsNT4.0は、最新のものがインストールされています。  『WindowsNT4.0ファーストステップガイド』	
マウスドライバ ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。	
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1. 25MBフォーマットのFDを読み書きするためのデバイスドライバです。	
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。	
モデムドライバ( FAXモデム機能搭載モデル ) FAXモデム機能を使用するためのデバイスドライバです。	
VirusScan for Windows 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。  『VirusScan for Windowsユーザーズガイド( 電子マニュアル )』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル( PDFファイル ) 「ユーザーズマニュアルファイル( 本書 )」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。	



# 各部の名称と働き

## 本体前面



## 本体背面

冷却ファン  
内部で発生する熱を逃がします。

USB コネクタ  
USB 対応の周辺機器を接続します。

キーボードコネクタ  
キーボードを接続します。

マウスコネクタ  
PS/2 マウスを接続します。

DFP コネクタ  
デジタル方式のディスプレイを接続します。

モニタコネクタ  
アナログ方式のディスプレイを接続します。

AC アダプタコネクタ DC-IN  
添付の AC アダプタケーブルを接続して電気を供給します。

LAN コネクタ  
ローカルエリアネットワーク接続用のコネクタです。

ライン出力コネクタ  
アンプ内蔵スピーカなどを接続します。

ライン入力コネクタ  
オーディオ機器の出力信号線を接続します。

PHONE モジュラジャック  
(FAX モデム機能搭載モデル)  
電話機と接続します。

LINE モジュラジャック  
(FAX モデム機能搭載モデル)  
電話回線と接続します。

シリアルコネクタ  
モデムなど、RS-232C インタフェースに対応した機器を接続します。

パラレルコネクタ  
プリンタやスキャナなどを接続します。

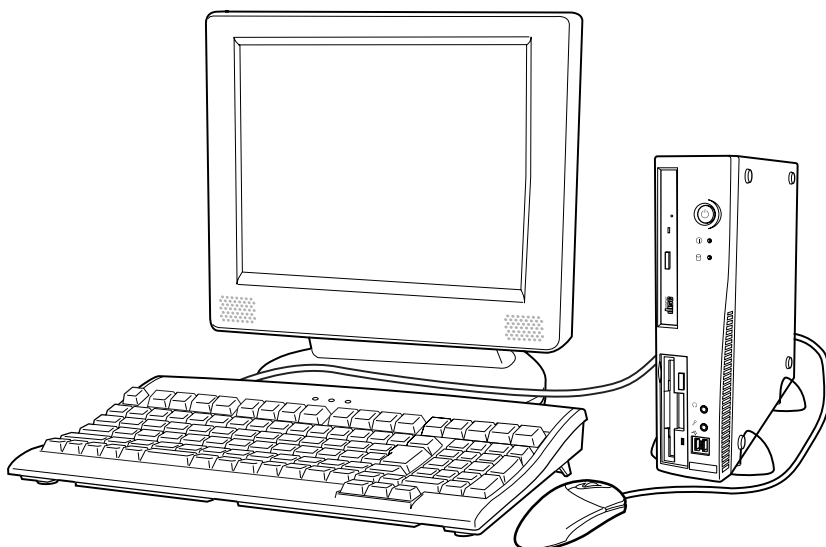
ゲームポート/MIDI コネクタ  
ジョイスティックなどを接続します。

日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。  
誤ってこれらのディスプレイを接続しないように注意してください。  
VGA (モニタ) コネクタとDFPコネクタを同時に使用することはできません。

# コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。



## 設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところ
  - ・じゅうたんや布団の上
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

## 各種コード(ケーブル)接続時の注意



**警告**

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



**注意**

- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

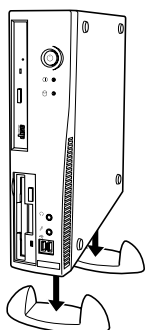
## 設 置

**1**

### 本体に縦置きスタンドをセットします。

本機を横置きで使用する場合は、この作業は必要ありません。

- ① 電源スイッチ側を上にして、縦置き用スタンドにセットします。
- ② 本体が安定するようにスタンドの位置を調節します。

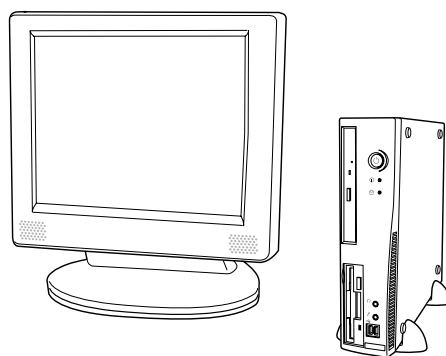


**制限**

本機を縦置きで使用する場合は、必ず電源スイッチ側を上にして設置してください。電源スイッチ側を下にして設置すると、コンピュータが正常に動作しない場合があります。

**2**

### コンピュータとディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。



**制限**

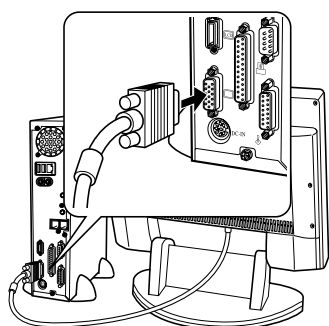
本機を横置きで使用する場合、本機の上に載せられるディスプレイの重さは14kgまでです。それ以上の重さのディスプレイは載せないでください。

## ディスプレイの接続

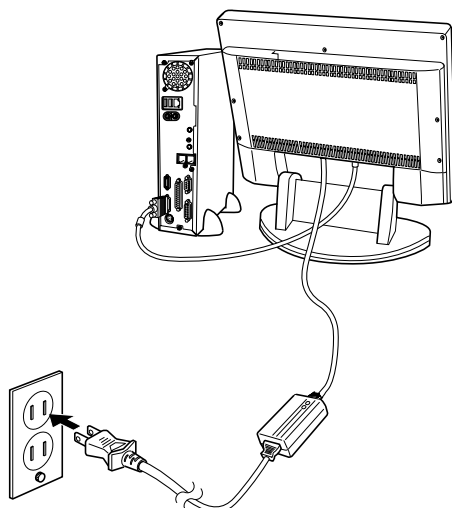
以下では、一般的なアナログ方式のディスプレイの接続方法について説明しています。

ディスプレイの接続方法と注意事項については、ご使用になるディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- 3** ディスプレイの接続コードを、本機背面のモニタコネクタに接続します。

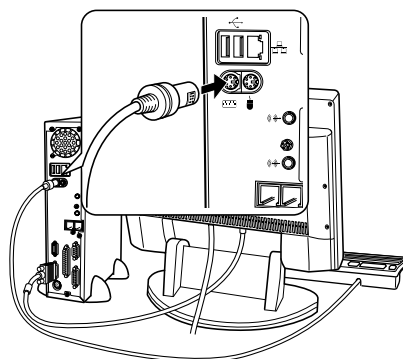


- 4** ディスプレイの電源コードをディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



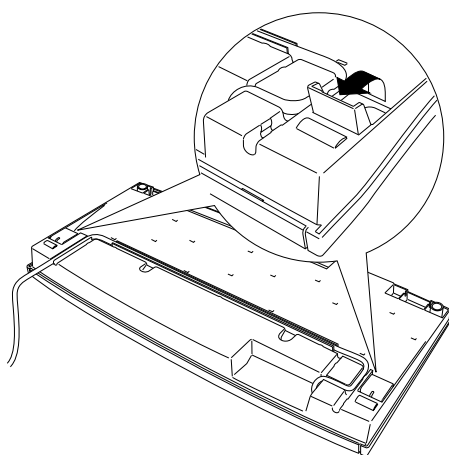
## キーボードの接続

- 5** キーボードコネクタを下图の方向に向けて、本機のキーボードコネクタに差し込みます。



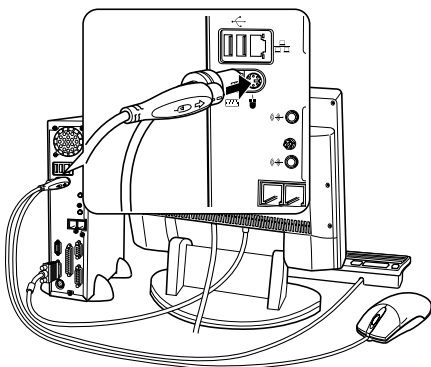
キーボードは、操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こす。
- キーボードコードを、左右どちらかの底面の溝から引き出します。



## マウスの接続

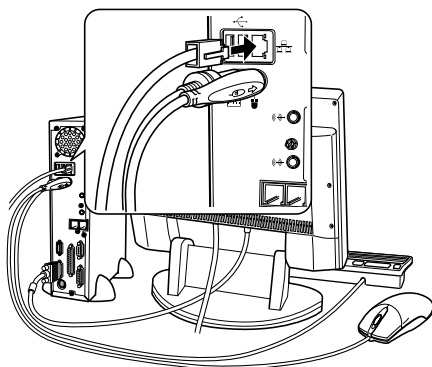
- 6** マウスコネクタの矢印のイラストを下図の方向に向けて、本機のマウスコネクタに差し込みます。



## ネットワークへの接続

- 7** ネットワーク用ケーブルをネットワークのコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。

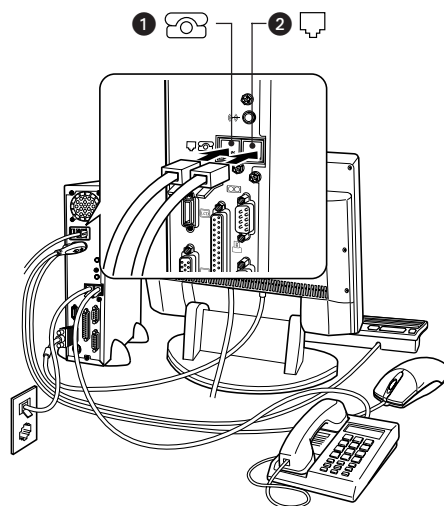


## 電話回線への接続

- 8** FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、電話回線への接続を行います。

使用している回線や、電話機によっては接続ができないことがあります。p.69「FAXモデムを使う」をご覧ください。

- ① 電話機のモジュラコードをモデムのPHONEモジュラジャックに接続します。
- ② 屋内配線のモジュラコネクタとモデムのLINEモジュラジャックを付属のモジュラコードで接続します。

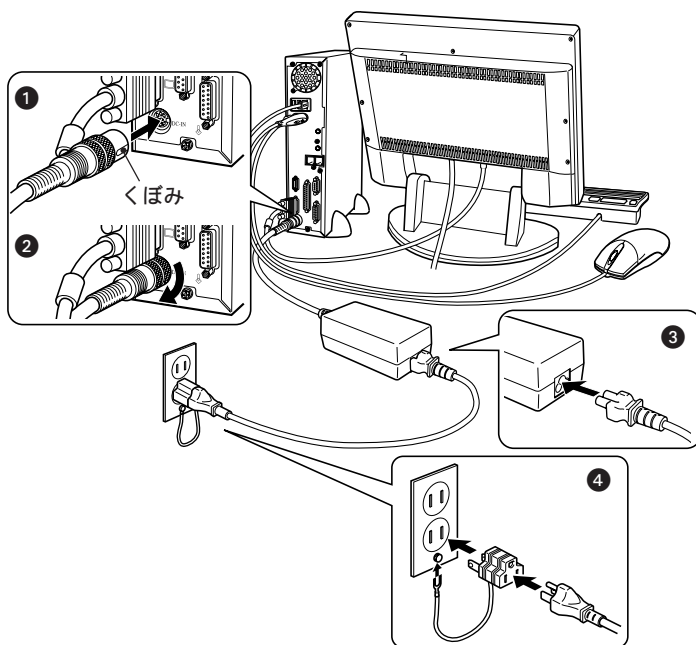


## 9

## ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

- ① ACアダプタプラグ部のくぼみを下図の方向に向けて本体背面のACアダプタコネクタに接続します。
- ② ACアダプタプラグ部を矢印の方向にまわし、プラグ部と本体を固定します。
- ③ 電源コードをACアダプタに接続します。
- ④ 家庭用電源コンセントに添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから電源コードを接続します。

アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



使用中にACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

# 電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

## 電源を入れる前に

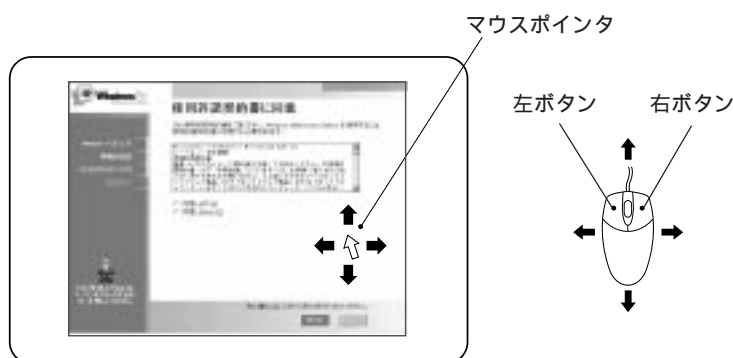
### Windowsの セットアップ

コンピュータが届いてから初めて電源を入れた場合には、Windowsが起動後、自動的に「Windowsセットアップ」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに、1度だけ起動するソフトウェアです。お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。


### マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。  
セットアップに必要なマウスの基本操作を説明します。

- 1 Windowsの画面では、次のようにマウスポインタが表示されます。マウスを机の上で前後左右に動かすと、動かした方向にマウスポインタが移動します。



- 2 画面に操作を選択するボタンなどが表示されています。これから行いたい操作のボタン上にマウスポインタの先端を合わせます。マウスポインタを合わせたら、マウスの左ボタンを1回「カチッ」と押して離します。これで、操作が選択され、実行します。以降このように左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

 p.48「マウスを使う」

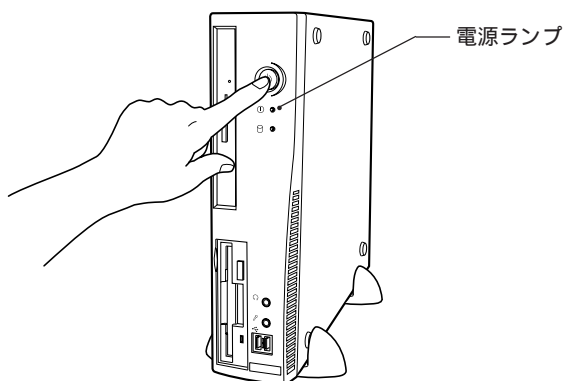


## 電源の入れ方とWindowsの起動

本体の電源の入れ方は、次のとおりです。

はじめて  
電源を入れる

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本体の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。  
電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタおよび電源コードが正しく接続されているか確認します。



- 3 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続けてWindowsのセットアップを行います。

WindowsMeインストールモデル

 p.21 「WindowsMeインストールモデルのセットアップ」


Windows98インストールモデル

 p.24 「Windows98インストールモデルのセットアップ」

Windows2000インストールモデル

 p.28 「Windows2000インストールモデルのセットアップ」


WindowsNT4.0インストールモデル

 p.33 「WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ」

## 2回目以降に 電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源スイッチを押す。  
省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意してください。

 p. 64「省電力機能」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源スイッチを押す。  
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。  
コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

## Windows使用時の確認事項

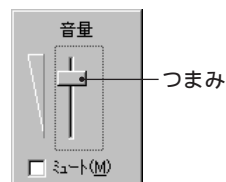
Windowsのセットアップが終了すると、Windowsが使用できる状態になります。  
また、次回より電源を入れると、起動後すぐにWindowsが使用できます。Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド』(Windows98/WindowsNT4.0は、『ファーストステップガイド』)や「Windowsのヘルプ」をご覧ください。Windows使用時の確認事項や設定事項は、次のとおりです。

### 音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には、次のように音量を調節します。

画面右下のタスクバーに表示されているスピーカアイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

スピーカアイコン



ボリュームコントロール

## 省電力機能

WindowsMe/Windows98/Windows2000インストールモデルでは、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合マウス、キーボードの操作でもとに戻ります。

 p.64「省電力機能」

## デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD-ROM」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

WindowsMeインストールモデルの場合 : C:\%WINDOWS%\OPTIONS\CABS

Windows98インストールモデルの場合 : C:\%WINDOWS%\OPTIONS\CABS

Windows2000インストールモデルの場合 : C:\%1386 (Iはアルファベット)

WindowsNT4.0インストールモデルの場合 : C:\%1386 (Iはアルファベット)

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

## 購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは、次のように設定されています。

	ドライブ	ファイルシステム
Windows Me インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 98 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 2000 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows NT4.0 インストールモデル	先頭の2GB (Cドライブ) 残りの領域	FAT16 未設定

### WindowsNT4.0の領域設定

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GBに基本MS-DOS領域(Cドライブ)を作成しWindowsをインストールします。このシステム領域を2GB以上に拡張することはできません。また、WindowsNT4.0の未設定領域は、このままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して、領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」



CDドライブがデータでいっぱいになったら

WindowsNT4.0インストールモデルのCDドライブ(2GB)がデータでいっぱいになり容量不足になったときは、CDドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたはそれ以降のドライブに移動すると空き領域を作成できます。

コントロールパネル 購入後初めて「コントロールパネル」を開くと、左側の画面が表示されます。この表示は、よく使うアイコンのみを表示しています。マニュアル中に記載されている各種設定を行うときに、必要なアイコンが表示されない場合は、画面左側の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。



# WindowsMeインストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsMeインストールモデルのセットアップ方法について説明します。

## WindowsMeのセットアップ

WindowsMeインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsMeセットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[ 次へ ]をクリックします。

使用許諾契約に同意

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

設定が完了しました

↓ Windowsが正常にインストールされました。[ 完了 ]をクリックし、セットアップを続けてください。

お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[ OK ]をクリックします。

- 2 WindowsMeのデスクトップが表示されます。これでWindowsMeのセットアップは終了です。

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。



次ページ「セットアップ終了後の作業」

## セットアップ終了後の作業


WindowsMeセットアップ終了後に、次の作業が必要です。


**WindowsMe起動ディスクの作成** WindowsMeがHDDから起動しなくなった場合などに使用するディスクを作成します。必ず作成してください。

 次ページ「WindowsMe起動ディスクの作成」

**ネットワークに接続する** ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

**FAXモデムの設定** FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

 p.70「インターネットに接続するには」


**VirusScan for Windowsのインストール** 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。  
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。


## WindowsMe起動ディスクの作成

WindowsMe起動ディスクは、WindowsMeがHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

WindowsMe起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを1枚用意しておきます。

 p.51「FDのフォーマット」

- 1 「コントロールパネル」 「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。
- 2 「起動ディスク」タブをクリックします。
- 3 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。
- 4 「WindowsMe起動ディスク」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.52「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

# Windows98インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows98インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

## Windows98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ようこそ

↓ 日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

Windows98へようこそ

↓ ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。  
名前を入力後 [Tab] を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

Windowsユーザー使用許諾契約書

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

セットアップの完了

↓ Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定

↓ 「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。設定したら[閉じる]をクリックします。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。



## お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら[ OK ]をクリックします。

2

Windows 98のデスクトップが表示されます。これでWindows 98のセットアップは終了です。

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。



次ページ「セットアップ終了後の作業」

## セットアップ終了後の作業

Windows98セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

Windows98起動ディスクの作成

Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用するディスクを作成します。必ず作成してください。


 次ページ「Windows98起動ディスクの作成」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際は、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定

FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

 p.70「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

## Windows 98 起動ディスクの作成

Windows98起動ディスクは、Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意しておきます。

 p. 51「FDのフォーマット」

- 1 「コントロールパネル」 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2 「起動ディスク」タブをクリックします。
- 3 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。
- 4 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
- 5 「Windows 98 起動ディスク 1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.52「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

# Windows2000 インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows2000インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

## Windows2000のセットアップ

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

### Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[ 次へ ]をクリックします。

### ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

### ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。  
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

### コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

### 日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。

## Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

これでWindows2000のセットアップは終了です。Windows2000が再起動し、パスワードを入力すると、Windows2000のデスクトップが表示されます。



続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。




次ページ「セットアップ終了後の作業」

## セットアップ終了後の作業


Windows2000セットアップ終了後に、次の作業が必要です。


セットアップブートディスクの作成 回復コンソールを実行する場合などに使用する「セットアップブートディスク」を作成します。必ず作成してください。

 次ページ「セットアップブートディスクの作成」

ネットワークに接続する ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定 FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

 p.70「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windowsのインストール 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。  
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

## セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール\*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

\* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。

このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。



未フォーマットFDをフォーマットする場合は、p.51「FDのフォーマット」の記述をご覧ください。

セットアップブートディスクの作成は、次の手順で行います。フォーマット済みのFDを4枚用意しておきます。

p. 51「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のように入力して を押します。  
 CD ¥BOOTDISK ( ¥ は、スペースを意味します。)  
 「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。  
 ① 「C:」と入力して を押します。  
 ② 「CD ¥」と入力して を押します。
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のように入力して を押します。  
 MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら を押します。

5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。  
ディスクの作成が始まります。

6 1枚目のディスクの作成が終わったら、画面の指示に従い2～4枚目のディスクセットを作成します。作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。



p.52「ライトプロテクト(書き込み禁止)」



# WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ方法について説明します。このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

## WindowsNT4.0 のセットアップ

Windows NT4.0 インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくするとWindowsNT Workstationの画面が表示され、Windowsが起動します。
- 2 WindowsNT4.0が起動すると、自動的に「WindowsNTセットアップ」が実行されます。  
セットアップの流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

### ソフトウェア使用許諾契約への同意

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

### 情報の収集

ユーザー情報として、次の項目を入力します。  
① 名前・組織名  
② コンピュータ名  
Tab を押すと次の欄にポインタが移動します。

### WindowsNT4.0のアップデート

「Service Pack6aのセットアップ」が行われ、Windows NT4.0が更新されます。  
「Windows NT4.00は正常にインストールされました。」と表示されたら、Windowsを再起動します。再起動時のオペレーティングシステムの選択では、[ WindowsNT Workstation Version 4.00 ] を選択します。  
さらに「Windows Update:Internet Explorerとインターネットツール」画面で、Windowsが自動的に再起動します。

## NTにログオンする

ここで **Ctrl** + **Alt** + **Delete** キーを押し、ログオン情報入力画面が表示されたら、ユーザー名、パスワードには、次のように入力して **OK** をクリックします。

ユーザー名:


パスワード:  (何も入力しません。)

これらの設定は、**[スタート]「プログラム」「管理ツール」「ユーザーマネージャ」**または**「WindowsNTのヘルプ」**から変更できます。

- 3 これでWindowsNT 4.0のセットアップは終了です。ログオンに成功すると、次の画面が表示されます。



ネットワーク機能を使用しない場合は、「セットアップ終了後の作業」を行います。

 p.37 「セットアップ終了後の作業」

- 4 ネットワーク機能を使用する場合は、「ネットワークドライバ」と「ServicePack6a」のインストールが必要です。

本機のHDDには、ネットワークドライバがインストールされていません。ネットワークドライバのインストール時には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

 p.35 「ネットワークドライバのインストール」

## ネットワークドライバのインストール

ネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。


- 1 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「WindowsNTネットワークがインストールされていません。今すぐインストールしますか?」とメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 「このコンピュータをネットワークに参加させる方法を指定してください。」と表示されたら、「ネットワークに接続」にチェックマークが付いている状態で [次へ] をクリックします。
- 6 [一覧から選択] をクリックして、続けて [ディスク使用] をクリックします。
- 7 「D:¥SISLAN¥NT40」と入力して [OK] をクリックします。  
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 8 「OEMオプションの選択」画面で「SIS 900 Fast Ethernet Adapter」を選択して [OK] をクリックします。続けて [次へ] をクリックします。
- 9 以降は、ネットワーク管理者の指示に従って操作します。  
「いくつかのWindowsNTファイルをコピーする必要があります...」と表示されたら、「C:¥I386」と入力して [続行] をクリックします。
- 10 「このコンピュータにネットワークがインストールされました...」とメッセージが表示されたら、[完了] をクリックします。
- 11 「ネットワーク設定の変更」画面で「...今すぐコンピュータを再起動しますか?」と表示されたら [いいえ] をクリックし、「Service Pack6a」のインストールを行います。



次ページ「Service Pack6aのインストール」

## Service Pack6aのインストール


Service Pack6aのインストールは、次の手順で行います。


- 1 [ スタート ] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 2 「名前」に「C:¥SP6¥SP6I386」と入力して[ OK ]をクリックします。  
( ¥SP6I386のIは、アルファベット )
- 3 画面の指示に従ってインストールを行います。  
「WindowsNT Service Packセットアップ」画面では、「同意する」にチェックマークを付け、「後でService Packをアンインストールできるように...」のチェックを外します。
- 4 「...インストールは完了しました」と表示されたら、[ 再起動 ]をクリックします。  
Windowsが再起動するとService Pack6aのインストールは終了です。  
続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。  
 次ページ「セットアップ終了後の作業」

## セットアップ終了後の作業


WindowsNT4.0セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

**FAXモデムの設定** FAXモデム機能搭載モデルをお使いの場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

 p.70「インターネットに接続するには」

**VirusScan for Windowsのインストール** 本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。  
 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

**Option Packのインストール** 必要に応じて「WindwosNT4.0 Option Pack」のインストールを行います。

**HDDの領域設定** HDDの未設定領域を使用できるように設定します。  
 p.55「購入時のHDD領域の設定について」

「セットアップ終了後の作業」が終了すると、Windowsを使用することができます。p.18「Windows使用時の確認事項」をよくお読みになり、Windowsを使用してください。

# 電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってもう1度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDなどのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源を切ってもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

## WindowsMeの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsMeを終了させてから電源を切ります。

- 1 [ スタート ] - 「 Windowsの終了 」をクリックします。
- 2 「 Windowsの終了 」画面で「 終了 」を選択し、[ OK ]をクリックします。
- 3 WindowsMeが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

## Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にマークが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

## Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

## WindowsNT4.0の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsNT4.0を終了させてから電源を切ります。

- 1 [ スタート ]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「シャットダウン」画面で「コンピュータをシャットダウンする」にマークが付いている状態で[ はい ]をクリックします。
- 3 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されたら、コンピュータの電源を切ります。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。



## リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。万一データを消失してしまった場合に備えて、日頃からデータをHDDなどに保存しておくことをおすすめします。ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの  
リセット方法

「電源の切り方」を参照して、[スタート]からWindows上でリセットします(プログラムハングアップ時は、使用できません)。

リセットできない  
ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



# コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやFDDなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

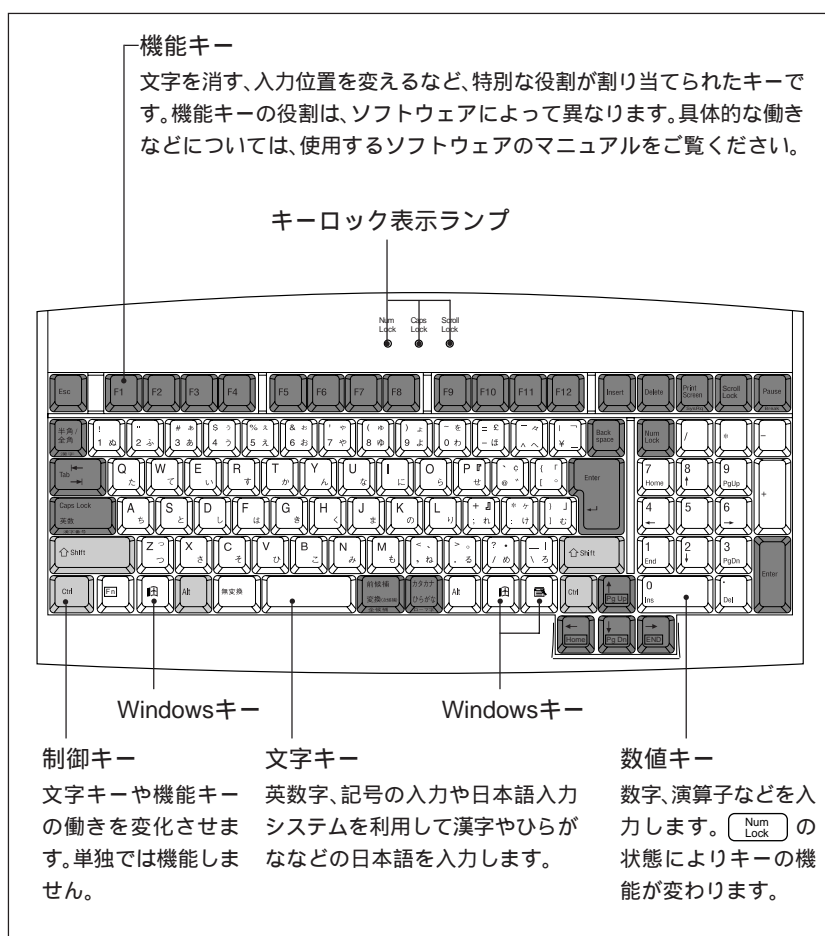
# キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、日本語対応106キーボードです。  
キーボードの接続方法についてはp.11「コンピュータの設置」をご覧ください。

## キーの種類と役割

106個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられていますが、大きく5つのグループに分けられます。








### 入力キー



キートップに表示された文字と実際に入力される文字が異なる場合もあります。













## キーロック表示ランプ

キーボードの上部には、次の3つのランプがあります。

- NumLock** :  の状態を示します。  
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。数値キーの役割を切り替えます。点灯状態では、数値キーの上側に印刷された数字が入力されます。消灯状態では、数値キーの下側に印刷された矢印などの機能キーの役割になります。
- CapsLock** :  の状態を示します。  
 +  を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。文字キーで入力される文字の種類を切り替えます。点灯状態では大文字が入力され、消灯状態では小文字が入力されます。
- ScrollLock** :  の状態を示します。  
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。このキーはソフトウェアによって機能が異なります。  
 詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

## Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、 キーと組み合わせて使用することができます。

 + 	 (Page Up)の役割をします。
 + 	 の役割をします。
 + 	 (Page Down)の役割をします。
 + 	 の役割をします。

## 日本語の入力

ひらがなや漢字などの日本語の入力や£、¢、¥などの特殊記号の入力には、日本語入力システムを使用します。本機では、Windowsに添付のMS-IMEを使用しています。

日本語や特殊記号の詳しい入力方法は、『クイックスタートガイド』(Windows98/WindowsNT4.0)は、『ファーストステップガイド』または「MS-IMEのオンラインヘルプ」をご覧ください。



## 記号の入力

インターネットでURLやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、次のキーを押して入力します(日本語入力システムをオフにした状態)。



















入力記号	入力方法
{ コロン }	
{ セミコロン }	
{ ハイフン }	
{ スラッシュ }	
@( アットマーク )	
( チルダ )	+
_ ( アンダーバー )	+

Windowsキー  
と組み合わせて  
使うキー

2つのWindowsキーは、次の働きをします。

Windowsキー	機 能
	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機 能
 + 	Windowsのヘルプが表示されます。
 + 	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + 	「検索:条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 +  + 	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + 	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
 +  + 	最小化されているウィンドウをすべてもとのサイズに戻します。
 + 	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + 	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

# マウスを使う

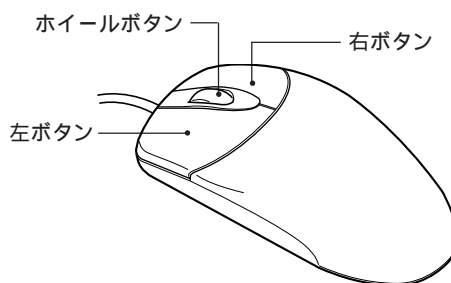
本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

ホイール機能を使用するには、「マウスドライバ」がインストールされている必要があります。「マウスドライバ」は、購入時にはインストールされています。

## マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態のマウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

## マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、「コントロールパネル」-「マウス」を開いて、設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。



# FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

3.5型2HD：1 44MBまたは1.25MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には、新しいFDと交換してください。

## FDのセットと取り出し



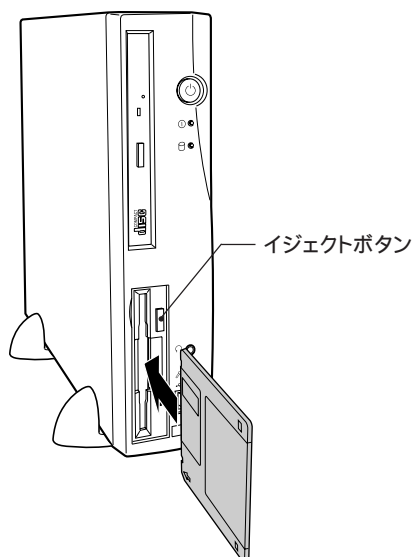
制限

アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

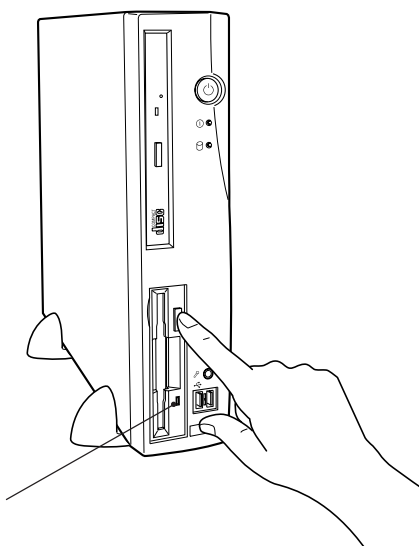
### セット方法

- 1 ラベル面を本体の左側に向け、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



### 取り出し方法

- 1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。
- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



## FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。

メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。本機には1.25MBフォーマット用のユーティリティは添付されていません。

**フォーマット方法** Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。



制限

Windows2000では、Windowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを連続して2枚以上フォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は、「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示された場合は、「OK」をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。
- 5 「閉じる」をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。

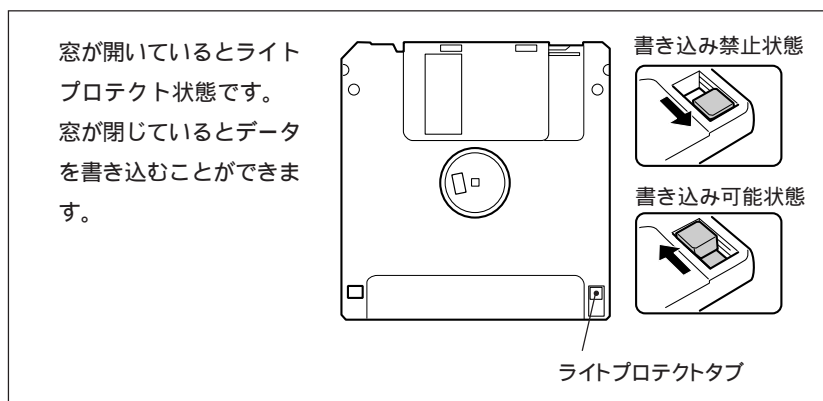
## データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

## ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくで安心です。

ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



## 1.25MBのFDを使用する

本機のWindowsにはあらかじめ専用の3モードFDDドライバがインストールされており、1.25MBフォーマットのFDを使用することができます。1.25MBフォーマットは、EPSON PQ(98互換機)シリーズや日本電気(株)製PC-9801シリーズのコンピュータで標準的に使用されていたフォーマットです。

### 3モードFDD ドライバ

1.25MBフォーマットのFDは、1.44MBフォーマットのFDと同様にAドライブで使用することができます。

1.25MBのFDの読み書きのみをサポートします。1.25MBのフォーマットやディスクコピーなどは行えません。

512バイト/セクタでフォーマットされた1.21MBフォーマットのFDの読み書きは行えません。これは日本語MS-DOSのFORMATコマンドで/Eオプション(EQUITYフォーマット)でフォーマットされたディスクです。

1.25MBフォーマットのFDで提供されているアプリケーションソフトをインストールすることはできません。

1.25MBフォーマットのFDからシステムを起動させることはできません。

# HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



制限

誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

HDDを分解しないでください。

HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったりリセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつかけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。

## HDDのバックアップ

HDD内に重要なデータを作成したら、FDなどの別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

## 購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

	ドライブ	ファイルシステム
Windows Me インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 98 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows 2000 インストールモデル	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
Windows NT4.0 インストールモデル	先頭の2GB (Cドライブ) 残りの領域	FAT16 未設定

Windows NT4.0  
インストールモデル  
のHDD構成

Windows NT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GB(Cドライブ)に基本MS-DOS領域を作成して、Windowsをインストールします。このシステム領域を2GB以上に拡張することはできません。また、残りの領域は未設定です。このままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して領域作成とフォーマットを行います。

Cドライブがデータでいっぱいになり、容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたは以降のドライブに移動すると、空き領域を確保できます。

# CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データの入ったデータCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

## CD-ROMのセットと取り出し



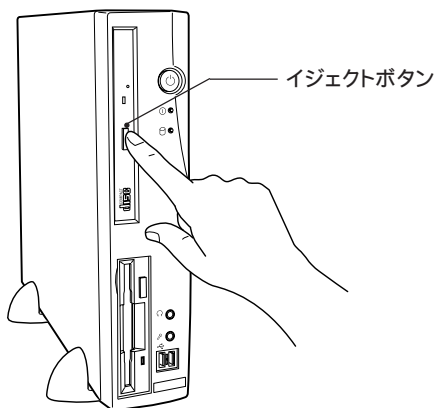
CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、リセットしないでください。

ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。CD-ROMのデータが読めなくなります。必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

### セット方法

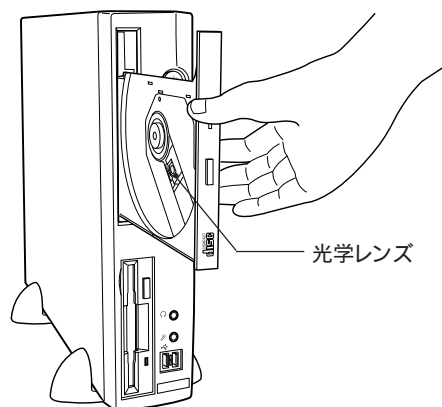
1

イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。



2

ディスクトレイを静かに引き出します。

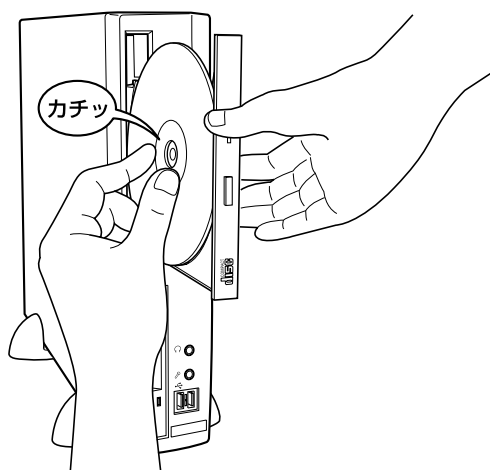




- 3 CD-ROMの印刷面を本体左側に向けてCD-ROMをディスクトレイにあわせ、「カチッ」と音がするまで軽く押し込みます。

押し込む時は、片方の手でディスクトレイの裏側を支えます。

CD-ROMは、ディスクトレイにしっかりとめ込んでください。しっかりとめ込まれていないと、ディスクトレイを閉じる時にCD-ROMがフロントパネルに引っかかり、CD-ROMドライブの故障の原因になります。



- 4 ディスクトレイを静かに閉じます。

#### 取り出し方法

- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯(点滅)していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2 ディスクトレイを静かに引き出し、CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 3 ディスクトレイを静かに閉じます。

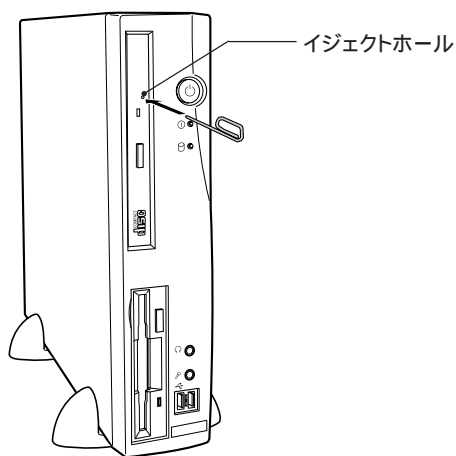
## 強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には強制的にディスクトレイを引き出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合。

CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合。

- 1 電源が入っている場合は、コンピュータの電源を切ります。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。  
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

# 解像度や表示色を変更する

本機のメインボード上には、ディスプレイ機能( SIS 630 AGP set integrated 2D/3D )が搭載されています。


解像度や表示色の設定方法について説明します。



## 参考

### Safeモード・VGAモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモード( WindowsMe/Windows98 )またはVGAモード( Windows2000/WindowsNT4.0 )で起動して再設定を行ってください。

 p.117「ディスプレイの不具合」



## 制限

本機では「解像度と表示色」に記載されている以外の設定を選択することができますが、それらの設定に関しては保証していません。

本機では「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[ 詳細 ]-「ディスプレイモード」タブで各種設定を行えますが、「ディスプレイモード」タブの機能に関しては保証していません。

## Windows Meの場合

解像度や表示色  
を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windows  
のヘルプ」も参照してください。

- 1 「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[ OK ]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のビデオ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合もあります。

ディスプレイの  
設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コン  
トロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[ 詳細 ]-「モニタ」タブで接続されて  
いるディスプレイの設定を行ってください。

## Windows 98の場合

解像度や表示色  
を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windows のヘルプ」も参照してください。

- 1 「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[ OK ] をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のビデオ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合もあります。

ディスプレイの  
設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[ 詳細 ]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

## Windows 2000の場合

解像度や表示色  
を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windows  
のヘルプ」も参照してください。

- 1 「コントロールパネル」「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「画面の色」で設定を変更します。



- 4 項目を変更したら、[ OK ]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

ディスプレイの  
設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。「コン  
トロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブで接続されて  
いるディスプレイの設定を行ってください。

## WindowsNT4.0の場合

解像度や表示色を  
変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windows  
のヘルプ」も参照してください。

- 1 「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「ディスプレイの設定」タブをクリックします。
- 3 「デスクトップ領域」や「カラーパレット」で設定を変更します。



表示色を  
設定します。

解像度を  
設定します。

- 4 項目を変更したら、「テスト」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度と表示色

本機のビデオ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

表示色 解像度	256色	65536色	True Color
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1152 × 864 ドット			
1280 × 1024 ドット			

ただし、接続しているディスプレイによっては正常に表示できない場合があります。

# 省電力機能

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



制限

WindowsNT4.0では、省電力機能は使用できません。「CMOS Setupユーティリティ」-「Power Management Setup」の設定を変更しないでください。設定を変更すると、コンピュータが正常に動作しなくなる場合があります。

WindowsMe/Windows98/Windows2000では、「CMOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。( NetWareのみ )
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

## 省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

**HDD/ディスプレイの電源を切る**

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

**スタンバイ**

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます。

**休止状態( WindowsMe/Windows2000 )**

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。



休止状態を有効にする  
(Windows2000)

Windows2000インストールモデルの場合、休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。

「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックして、「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。



WindowsMeインストールモデルの場合は、あらかじめ「休止状態をサポートする」にチェックが付いています。購入時は、「1時間後」に設定されています。

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態 ( WindowsMe/Windows2000 )	消 灯
電源切断時	消 灯

## 実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

### ① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと、ディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

### ② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

WindowsMe/Windows98 :「コントロールパネル」-「電源の管理」

Windows2000 :「コントロールパネル」-「電源オプション」

### 時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、ディスプレイまたはHDDの電源が切れます。

設定した時間を超えて何も操作しないと、スタンバイまたは休止状態に移行します。

WindowsMeの場合

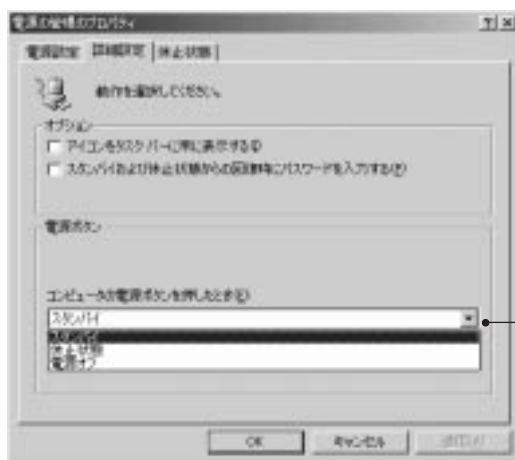
## 直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

[スタート] - 「Windowsの終了( Windows2000では、「シャットダウン」)」から選択し移行します。

電源スイッチを押して実行します。

電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを「詳細設定」タブ ( Windows98/Windows2000は、「詳細」タブ ) で設定します。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

WindowsMeの場合

## 復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	マウス、キーボードを操作する。 ( 誤って電源スイッチを押さないでください。 )
スタンバイ	緑点滅	電源スイッチを押す。 マウス、キーボードを操作する。
休止状態 ( WindowsMe/ Windows2000 )	消 灯	電源スイッチを押す。

# FAXモデムを使う (FAXモデム機能搭載モデル)

FAXモデム機能内蔵モデルには、56Kbps (V.90対応) の通信速度に対応したFAXモデムカードが搭載され、高速の通信が可能です。

## お使いになる前に

**使用回線について** 本機は、ダイヤル回線でもプッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。  
ダイヤル回線またはプッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトやWindows上で設定することができます。

**ダイヤル回線** : 回転式ダイヤル電話機のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

**プッシュ回線** : 押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ…」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

**特殊な電話機・  
回線での使用**

### PBXへの接続

本機をPBX (構内交換機) に接続した場合は、NTT回線とPBXの回線 (内線) の電気的特性などが異なると本機が正常に動作しない場合があります。

PBXの管理者または保守業者などに電気的特性などがNTT仕様と一致するかどうかを確認してから接続を行ってください。

### 2線式でない電話装置 (ホームテレホンなど) での使用

ホームテレホンやビジネスホンなどの2線式でない電話装置は、内線の仕様がNTTの加入電話回線と異なります。このため内線側に (子機として) 本機をそのまま接続することはできません。

このような場合は、NTTの回線と電話装置の主装置 (親機) の間に切換機を設けたり、内線側に特別な処置をすることによって、本機の使用が可能になります。詳しくは、電話装置の販売業者や保守業者にお問い合わせください。

### キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合は、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用を避けてください。

なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

### 通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.90\*の通信方式により最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。

ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。

\*V.90: ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格

### 通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

### ATコマンドについて

本モデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「リカバリCD-ROM」(Windows2000では、「リカバリCD-ROM Disc2」)の「MODEM」-「Manual.HTM」(英文)をご覧ください。

### 国モードの設定について

本機の国モード(Country)は「Modem Country Selection」で日本国(Japan)に設定されています。この設定は変更せずに使用してください。

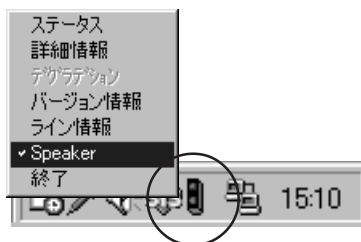
### ダイヤル音の設定

本モデムでは、ダイヤル音やネゴシエーション音を鳴らすか、鳴らさないかを設定することができます。ダイヤル中にタスクバーに表示される下図のアイコンを右クリックし、次のように設定します。

発信音を鳴らす : 「Speaker」にチェックを付けます。

発信音を鳴らさない : 「Speaker」のチェックを外します。

購入時の設定は、「発信音を鳴らさない」です。




# インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する場合の作業の流れは、次のとおりです。

## 電話回線の接続

本機のFAXモデムコネクタと電話回線を接続します。

 p.14「電話回線への接続」




## ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

 p.73「ダイヤル情報の設定」

ダイヤルアップネットワークのインストールを行います。(WindowsNT4.0のみ)

 p.73「ダイヤルアップネットワークのインストール」




## プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。

契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。


### ①オンラインで契約する。

電話回線を使用してインターネット参照サーバに接続し、プロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐにインターネットを使えます。支払いについては、クレジットカード決済になります。

 p.74「オンラインでプロバイダと契約する」

### ②ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

 p.76「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」





### 接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書では、ブラウジングソフトウェアとして「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、電子メールソフトウェアとして「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。



p.80「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」



### 参考

モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

ISDN回線を利用する

FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法は、TAの取扱説明書をご覧ください。

ネットワークを利用する

インターネットに接続されたLANなどに接続します。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ケーブルテレビの回線を利用する

詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

**プロバイダの選択**    プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点などについては、プロバイダにご確認ください。

**インターネットにかかる費用**    インターネットを利用する場合に発生する費用は、以下のとおりです。

初期費用: プロバイダへ契約時に支払います。

入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。

基本料金: 月または年ごとにプロバイダへ支払います。

通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。

追加課金: 基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。基本料金で利用できる時間を超えると、分あたりいくらという追加料金が加算されます。

通話料金: プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。NTT へ支払います。

アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

**インターネットを使う上での注意**    インターネットや、電子メールを利用すると簡単に情報が得られたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、注意しなければならないこともあります。次の点に気を付けてインターネットや電子メールを使用してください。

電子メールは、途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。

電子メールは、世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。

インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であることを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。



## ダイヤルするための準備

### ダイヤル情報の設定


モデムの設定をしていない場合は、お客様の住んでいる場所や市外局番などの設定を行います。

- 1 [ スタート ] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックし、「モデム」アイコン (Windows 2000は、「電話とモデムのオプション」アイコン) をダブルクリックします。
- 2 [ダイヤルのプロパティ] Windows 2000は、[編集] をクリックします。
- 3 「登録名」、「国名/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

### ダイヤルアップネットワークのインストール (WindowsNT4.0のみ)

WindowsNT4.0では、インターネット接続をするために「ダイヤルアップネットワーク」のインストールを行う必要があります。「ダイヤルアップネットワーク」のインストールは、次の手順で行います。

- 1 [ スタート ] - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 2 「ダイヤルアップネットワーク」画面で [ インストール ] をクリックします。  
「ファイルが必要」画面が表示された場合は「コピー元」に「C:\I386」(「I386」フォルダがCドライブにある場合)と入力して [ OK ] をクリックします。
- 3 「RASデバイスの追加」画面で、「RAS対応デバイス」項目に「COM3...」と表示されている状態で、[ OK ] をクリックします。
- 4 「リモートアクセスセットアップ」画面で [ 構成 ] をクリックします。
- 5 「ポート使用の構成」画面で「ダイヤルアウトのみ」にチェックマークを付けて [ OK ] をクリックします。
- 6 [ 続行 ] をクリックします。

- 7 「RASに対してネットワークプロトコルが選択されていません。…」と表示された場合は、[ OK ]をクリックして次の設定を行います。  
(この画面は、ネットワーク設定がされている場合は表示されません。)
- ① 「ネットワークの構成」画面で、「TCP/IP」をチェックし、[ OK ]をクリックします。
  - ② 再び「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されたら、[ 続行 ]をクリックします。ファイルのコピーが始まります。
- 8 「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されたら、[ 再起動しない ]をクリックします。
- 9 「WindowsNT4.0 Service Pack6a」をインストールします。  
 p.36「Service Pack6aのインストール」

## オンラインでプロバイダと契約する

モデムに電話回線を接続して「インターネット接続ウィザード」から、マイクロソフト社が用意したインターネット参照サーバに接続します。参照サーバの一覧から契約したいプロバイダを選択して契約できます。電話番号や、IDなどの各種登録や設定が自動で行われ、契約完了後にインターネットがすぐ使えます。

### プロバイダと 契約する

オンラインでプロバイダと契約する手順は、次のとおりです。契約時にクレジットカードのナンバーや有効期限などの情報が必要です。事前に用意しておきます。

- 1 [ スタート ] - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「通信(Windows98では、「インターネットツール」)」 - 「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「新しいインターネットアカウント...」を選択して、[ 次へ ]をクリックします。
- 3 インターネット参照サーバの電話番号が表示されます。地元の電話番号または「Nationwide(120)345349」を選択し、[ 次へ ]をクリックします。  
ダイヤルが開始され、必要な情報がダウンロードされます。

- 4 ダウンロードされた情報が開きます。契約したいプロバイダを選んで、[ 次へ ] をクリックします。
- 5 情報を入力して、契約します。以降は、各プロバイダの画面の指示に従ってください。  
プロバイダから提示されるユーザー ID やパスワードなどの情報は、忘れずに書きとめておきます。



#### 参考

##### 「オンラインサービス」でプロバイダ契約

WindowsMe/Windows 98/Windows2000 では、「オンラインサービス」というフォルダがデスクトップに表示されています。「オンラインサービス」フォルダ内のプログラムは、国内の代表的なプロバイダと契約できるサービスです。

「オンラインサービス」フォルダを開くと、プロバイダ名のアイコンがいくつか表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、契約のための画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

## 手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合のダイヤルアップ接続の設定方法を説明します。

プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行い、インターネットに接続できるようにします。

本章の手順は、設定方法の一例です。プロバイダより設定方法の資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。



### 参考

#### 接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	: コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウントID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
パスワード	: PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	: Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	: Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	: メールサーバ、POP メールサーバ

## ダイヤルアップ 接続の設定をする

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

- 1 [ スタート ]-「プログラム」-「アクセサリ」-「通信(Windows 98では、「インターネットツール」)-「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、…」にチェックを付けて[ 次へ ]をクリックします。
- 3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[ 次へ ]をクリックします。
- 4 「ステップ1:インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。
- 5 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は[ 詳細設定 ]をクリックします。  
IPアドレスの指定がない場合は手順10へ進みます。
- 6 「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。
- 7 「ISPによるDNS(ドメイン ネーム サービス)アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。
- 8 「プライマリDNSサーバー」,「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[ OK ]をクリックします。
- 9 「ステップ1:...」画面に戻ったら[ 次へ ]をクリックします。
- 10 「ステップ2:インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」,「パスワード」を入力し、[ 次へ ]をクリックします。
- 11 「ステップ3:コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[ 次へ ]をクリックします。

- 12 「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 13 プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。
- ① 「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、「次へ」をクリックします。
  - ② 「電子メールアドレス」を入力して「次へ」をクリックします。
  - ③ 「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して「次へ」をクリックします。
  - ④ 「アカウント名」と「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。
- 14 「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら「完了」をクリックします。
- 「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動します。
- 次の「インターネットへの接続と切断」に進みます。

## インターネットへの接続と切断

接続を開始する インターネットへの接続は、次の方法で行います。

- 1 「Internet Explorer」または「Outlook Express」を起動します。
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面(Windows Meは、「接続」画面)が表示されます。「接続先」、「ユーザー名」、「パスワード」などを入力します。  
自動的に入力されている項目もあります。
- 3 入力内容を確認して「接続」をクリックします。
- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。  
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。  
(Windows NT4.0では表示されません。)



< Windows Me/Windows 2000 >



< Windows 98 >



別の方法でインターネットに接続する

接続を開始するには、次のような方法もあります。

接続完了後に「Internet Explorer」または「Outlook Express」を起動します。

- ・ WindowsMeの場合 : 「マイコンピュータ」-「コントロールパネル」  
-「ダイヤルアップネットワーク」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[ 接続 ] をクリックします。
- ・ Windows98の場合 : 「マイコンピュータ」-「ダイヤルアップネットワーク」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[ 接続 ] をクリックします。
- ・ Windows2000の場合 : 「マイコンピュータ」-「コントロールパネル」  
-「ネットワークとダイヤルアップ接続」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[ ダイアル ] をクリックします。
- ・ WindowsNT4.0の場合 : 「マイコンピュータ」の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックします。  
「ダイヤルアップネットワーク」画面で [ ダイアル ] をクリックします。

電子メール作成時のインターネット接続

電子メールの送受信は、インターネットに接続されていないと行えませんが、メールを作成しているときや受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

接続を終了する  
(切断)

インターネットの切断は、次の方法で行います。

タスクバーに表示されている「接続」アイコンを右クリックし、「切断」をクリックします。

WindowsNT4.0で、ソフトウェアを起動してから接続した場合、タスクバーにアイコンは表示されません。ソフトウェア終了時の確認画面で [ 今すぐ切断する ] を選択します。



# Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)

インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

Outlook Express(アウトルックエクスプレス)

メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

## Internet Explorerの使い方

### 起動

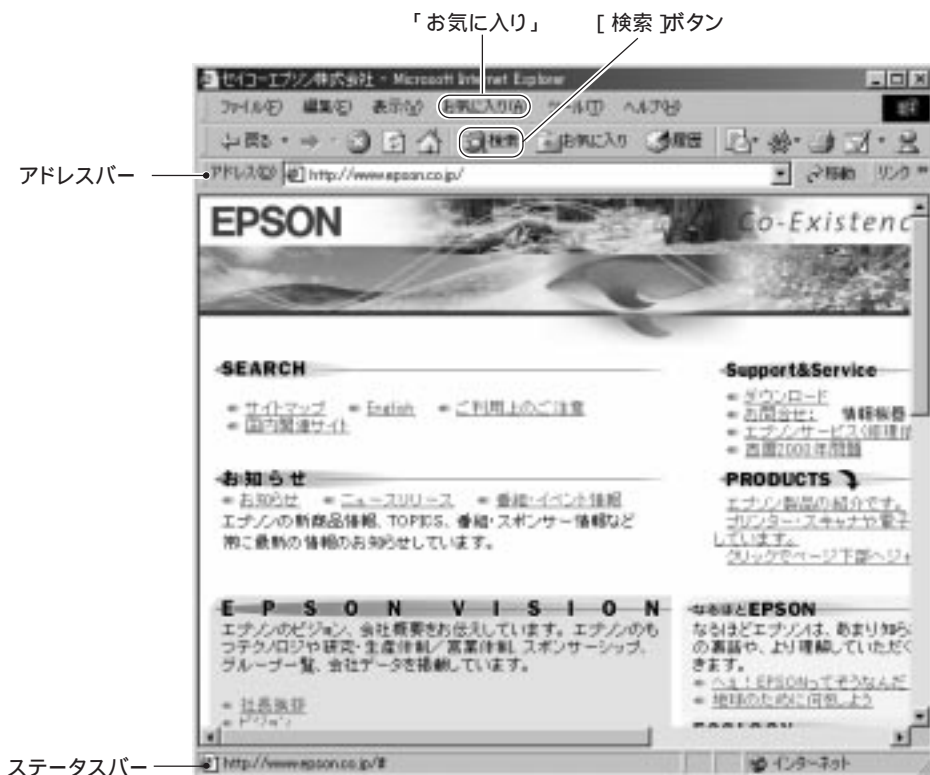
- 1 デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面(Windows Meは、「接続」画面)で[接続]をクリックします。接続が完了するとホームページが表示されます。

### 終了

- 1 画面右上の×をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。これでインターネットが切断されます。




## 使い方



画面の内容は予告なく変更する場合があります。

見たいホームページを開くには

- ・アドレスバーにURLアドレスを入力して  を押します。
- ・キーワードを使って検索します。




[検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

「お気に入り」にページを登録する

頻繁にアクセスするページは、「お気に入り」に登録しておく、「お気に入り」をクリックするだけで一覧が表示され、すぐにアクセスすることができます。

登録方法：「お気に入り」-「お気に入りに追加」をクリックします。

リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でポインタが  から  に変わる場所があります。  
 に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

# Outlook Expressの使い方

## 起動

- 1 [スタート] - 「プログラム」 - 「Outlook Express」をクリックします。
- 2 インターネットに接続する場合は、「ダイヤルアップの接続」画面 (Windows Meは、「接続」画面) で[接続]をクリックします。接続が完了すると自動的にメールの送受信ができます。

## 終了

- 1 画面右上の×をクリックして、「Outlook Express」を終了します。
- 2 インターネットに接続している場合は、「自動切断」画面で、[今すぐ切断する]をクリックします。

## 使い方



### メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

ボタン

フォルダ  
メールが保存されます。

アドレス帳に登録  
されたアドレスの一  
覧です。



接続の状態を表示します。  
オンライン: インターネットに接続しています。  
オフライン: インターネットに接続していません。

## メールを送信する

- 1 [新しいメール]ボタンをクリックするとメール作成画面が表示されます。
- 2 必要事項(「宛先」、「件名」、「本文」)を入力してメールを作成します。  
インターネットに接続されていない状態では、メール作成後に[送信]ボタンをクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。複数のメールを作成し一度に送信するときやメール作成に時間がかかるときなどに便利です。
- 3 [送受信]ボタンをクリックします。  
インターネットに接続されていない状態では、[送受信]ボタンをクリックすると、インターネットに接続する画面が表示されます。接続すると「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

## メールを受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると、自動的に受信します。  
インターネットに接続されていない場合は、[送受信]ボタンをクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。  
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る アドレス帳にメールアドレスを登録しておく、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス]ボタンをクリックします。
- 2 [新規作成]ボタンをクリックして、[新しい連絡先]をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

# その他の機能

## サウンド機能

本機のメインボード上には、サウンド機能(SIS 630 Integrated AC'97)が搭載されています。前面には、マイク入力コネクタとヘッドフォン出力コネクタ、背面には、ライン出力コネクタ、ライン入力コネクタとゲームポート/MIDIコネクタが用意されています。



ライン出力コネクタに外部スピーカを接続しても、内蔵スピーカの音を切ることはできません。(ヘッドフォン出力コネクタに外部スピーカを接続した場合には、内蔵スピーカの音が切れます。)

音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。Windows使用時に音が鳴らない、音が大きすぎるなどの場合には「ボリュームコントロール」で音量を調節します。

サウンドユーティリティは、「プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテインメント」(WindowsNT4.0の場合は「マルチメディア」)フォルダに登録されています。Windowsのサウンドユーティリティの使用方法は、『クイックスタートガイド』(Windows98/WindowsNT4.0は、『ファーストステップガイド』)やWindowsのヘルプをご覧ください。

## ネットワーク機能

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。

ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するためにネットワークケーブルや、ハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。



制限

NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。( NetWareのみ )
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。

## パラレルコネクタ

本機背面には、パラレルコネクタが1個用意されています。パラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。そのほか接続できるものについては、各周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

### パラレルポート の設定

本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「CMOS Setupユーティリティ」で変更してください。

p.103「Integrated Peripherals」

## シリアルコネクタ

本機背面には、シリアルコネクタが1個用意されています。シリアルコネクタには、シリアルマウス、外付けFAXモデムやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。

### シリアルポート の設定

本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「CMOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.103 「Integrated Peripherals」

## USBコネクタ

本機には、USBコネクタが前面に2個、背面に2個用意されています。4個のUSBコネクタは、すべて同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。USBコネクタを使用する場合は、接続する周辺機器に添付されているデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは接続する機器に添付されているマニュアルをご覧ください。また、「CMOS Setupユーティリティ」の「Integrated Peripherals」メニューで「USB Controller」が「Enabled」に設定されている必要があります。購入時は、[Enabled]に設定されています。

 p.103 「Integrated Peripherals」



USBコネクタは、WindowsNT4.0では使用できません。

## DFPコネクタ

本機背面のDFPコネクタには、デジタルモニタを接続します。詳しくはデジタルモニタのマニュアルをご覧ください。

## コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。

### データファイルの更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付のユーティリティCDに登録されています。





# BIOSの設定

CMOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

# BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムの集まりで、メインボード上にROMとして搭載されています。BIOSの設定によりコンピュータの基本的な動作が決定されます。BIOSは、コンピュータのシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合  
パスワードを設定する場合

BIOSの設定は、「CMOS Setupユーティリティ」を実行して変更します。CMOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリに保存されます。このメモリは、リチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしても消去されることはありません。



## 参考

### リチウム電池の寿命

CMOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。



## 制限

CMOS Setupユーティリティで設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値(初期設定値)と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.107「BIOSの設定値」

CMOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目が含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には、「Load Optimized Defaults (初期設定値)」を実行してください。

 p.94「設定値をもとに戻すには」

# CMOS Setupユーティリティの操作

## CMOS Setupユーティリティの起動


- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合は、リセットします。
- 2 画面の下側に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **Delete** を押します。**Delete** を押さないとシステムが起動します。  
Press DEL to enter SETUP

仕様が前回と異なる場合

コンピュータの状態が前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, Del to enter SETUP

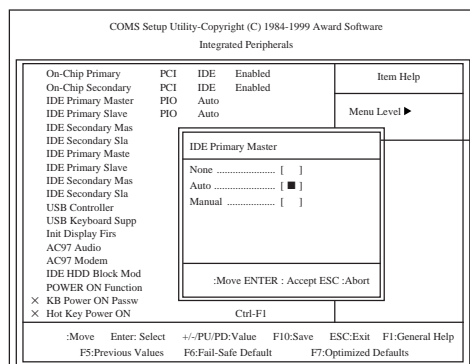
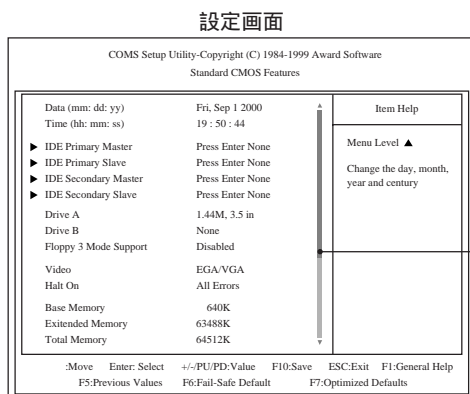
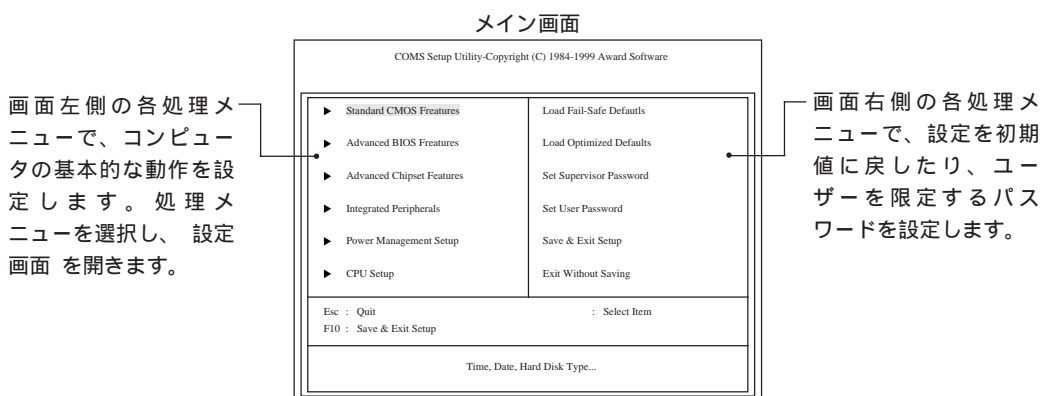
このメッセージが表示されたら **Delete** を押してCMOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Save & Exit Setup」を実行して終了します。

 p.97「CMOS Setupユーティリティの終了」








**F1** を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

## CMOS Setupユーティリティの操作






















CMOS Setupユーティリティの操作は、キーボードで行います。CMOS Setupユーティリティが起動すると、下図のようなメイン画面が表示されます。メイン画面から変更したい項目にカーソルを合わせて **←** を押すと、設定画面が表示されます。



## メイン画面 でのキー操作

   	処理メニューを選択します。  を押すと、該当する処理メニューの 設定画面 が表示されます。
	変更した内容を保存して終了します。「Save & Exit Setup」を選択した場合と同じです。
	変更した内容を保存せずに終了します。「Exit Without Saving」を選択した場合と同じです。

## 設定画面 でのキー操作

   	設定画面 や 処理画面 で設定項目や値を移動します。
	設定画面 で設定項目を選択して  を押すと処理画面 にすべての値が表示されます。 選択した値を設定します。
  ,  	項目の値を変更します。
	メイン画面 に戻ります。
	設定画面 の全項目の値を、前回保存した値に戻します。次のメッセージが表示されたら  を押し、  を押します。 Load Previous Values for this page (Y/N)?N
	設定画面 の全項目の値を、BIOSの初期設定値( コンピュータの処理速度を上げる機能のほとんどを無効にする )に戻します。次のメッセージが表示されたら  を押し、  を押します。 Load Fail-Safe Defaults for this page(Y/N)?N
	設定画面 の全項目の値を、コンピュータを最も高速に動作させる設定に戻します。次のメッセージが表示されたら  を押し、  を押します。 Load Optimized Defaults for this page(Y/N)?N
	変更した内容を保存して終了します。 「Save & Exit Setup」を選択した場合と同じです。

## 設定値をもとに戻すには

CMOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、CMOS Setupユーティリティの設定を前回保存した値や初期設定値に戻すことができます。

### Load Fail-Safe Defaults

CMOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値(コンピュータの処理速度を上げる機能のほとんどを無効にする)に変更します。この設定では、コンピュータの処理速度を上げるほとんどの機能が無効になるため、動作スピードが遅くなります。

設定画面で **F6** を押す、または メイン画面 右側の「Load Fail-Safe Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Fail-Safe Defaults(Y/N)?N

BIOSの設定を変更する場合は、**Y** を押してから **↵** を押します。  
変更しない場合は **↵** だけを押します。

### Load Optimized Defaults

CMOS Setupユーティリティの設定を、工場出荷値(コンピュータを最も高速に動作させる設定)に変更します。

設定画面で **F7** を押す、または メイン画面 右側の「Load Optimized Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Optimized Defaults(Y/N)?N

BIOSの設定を変更する場合は、**Y** を押してから **↵** を押します。  
変更しない場合は **↵** だけを押します。

## Passwordの設定

**Set Supervisor / User Password** この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができません。



パスワードには、「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があります。この機能は、「Advanced BIOS Features」の「Security Option」で選択した内容に連動します。「Security Option」と「Password」の関係は以下のとおりです。

Security Option	パスワードの要求	設定したパスワード	入力するパスワード	動作
Setup	CMOS Setupユーティリティ起動時	どちらか一方	設定したパスワード	CMOS Setupユーティリティを実行可能
		両方	Supervisor Password	CMOS Setupユーティリティを実行可能
			User Password	User Passwordの変更のみ可能
System	システム起動時	どちらか一方	設定したパスワード	システム起動
		両方		

### パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は、次のとおりです。

- 1 メイン画面 で「Set Supervisor Password」または「Set User Password」を選択すると次のメッセージが表示されます。  

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、を押します。  
「\*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されます。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、を押します。  
同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。  

Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、メイン画面 に戻ります。



登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き移して保管しておくことをおすすめします。万一、パスワードを忘れた場合は、販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。


## パスワード の削除

1

「Set Supervisor Password」または、「Set User Password」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

2

何も入力せずに  を押すと、「PASSWORD DISABLED!!!」(パスワードが削除されました。)が表示されます。続けて何かキーを押すとパスワードが削除されて、メイン画面に戻ります。



## CMOS Setupユーティリティの終了

CMOS Setupユーティリティを終了するには、次の2種類の方法があります。

### Save & Exit Setup

変更した内容を保存して、CMOS Setupユーティリティを終了します。

- 1  を押し、メイン画面 まで戻ります。
  - 2  を押し、または「Save & Exit Setup」を選択し  を押します。  
次のメッセージが表示されます。
- SAVE to CMOS and EXIT(Y/N)?Y
- 終了する場合は、 を押します。メイン画面 に戻る場合は  を押して  を押します。

### Exit Without Saving

変更した内容を保存せずに、CMOS Setupユーティリティを終了します。

- 1  を押し、メイン画面 まで戻ります。
  - 2  を押し、または「Exit Without Saving」を選択し  を押します。  
次のメッセージが表示されます。
- Quit Without Saving(Y/N)?N
- 終了する場合は、 を押して  を押します。メイン画面 に戻る場合は  を押します。

# CMOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、CMOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。CMOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。


- Standard CMOS Features : 日付、時間、FDDやHDDなどの設定を行います。
- Advanced BIOS Features : コンピュータの起動や動作状態を設定します。
- Advanced Chipset Features : コンピュータのI/O関係の動作速度の設定を行います。I/O関係の設定は、最適な値に設定されているため、通常は変更しないでください。
- Integrated Peripherals : コンピュータのI/O関係の動作速度とシリアルポートやパラレルポートなどの仕様を選択します。
- Power Management Setup : 省電力機能の設定を行います。
- CPU Setup : CPUクロックの設定を行います。

## Standard CMOS Features

\* は表示のみ/ は工場出荷時の初期値

Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
IDE Primary Master IDE Primary Slave IDE Secondary Master IDE Secondary Slave ( IDE HDDの設定 )	<p>IDE HDDの仕様を設定します。HDD以外のIDE装置(CD-ROMドライブなど)の設定は不要です。</p> <p>HDDの仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で認識されない古いHDDを使用する場合に、[Manual]などを選択して各項目を設定します。</p> <p>Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。Primary Masterのみ[Auto]でそれ以外はすべて[None]です。</p> <p>None : HDDを接続しない場合に選択します。</p> <p>Manual : 以降のHDDの各項目を個別に設定することができます。</p>
Access Mode	<p>HDDの記憶容量を設定します。通常は[Auto]を指定します。</p> <p>Auto : HDDに合わせて自動的に最適値を設定します。</p> <p>CHS : 容量が528MB以下のHDDを接続しています。</p> <p>LBA : 容量が528MB以上でLBAをサポートしているHDDを接続しています。</p> <p>Large : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしていないHDDを接続しています。</p>
* Capacity	HDDの記憶容量を表示します。
Cylinder	HDDのシリンダ数を設定します。
Head	HDDのヘッド数を設定します。
Precomp	書き込み補償シリンダを設定します。特に指示がない場合は65535を指定します。
Landing Zone	HDDのヘッドの固定トラックを設定します。特に指示がない場合はシリンダ数-1を指定します。
Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
Drive A Drive B (FDDの設定)	<p>内蔵のFDDの仕様を選択します。標準では、Drive Aに3.5型1.44MB対応FDDが接続されています。Drive Bは[None]です。</p> <p>None : FDD未接続 720K,3.5in. : 3.5型720KB対応FDD</p> <p>1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD 2.88M,3.5in. : 3.5型2.88MB対応FDD</p>
Floppy 3 Mode Support (1.25MBフォーマットのFDの設定)	<p>3モード対応FDDで、1.25MBフォーマットのFDを使用するかを設定します。本機では3モードFDDドライバをインストールして1.25MB FDを使用するため[Disabled]を選択します。</p> <p>Disabled : 1.25MB FDを使用しない。</p> <p>Drive A : Aドライブで使用します。</p>
Video (ビデオカードの設定)	<p>搭載しているディスプレイ機能の仕様を選択します。初期設定 EGA/VGA のまま使用します。</p> <p>EGA/VGA : VGA対応 CGA80 : CGA80対応</p> <p>CGA40 : CGA40対応 MONO : モノクロ</p>



Boot Up NumLock Status (起動時の <input type="button" value="Num Lock"/> の設定)	<p>起動時の <input type="button" value="Num Lock"/> の状態を設定します。</p> <p>Off : <input type="button" value="Num Lock"/> が押されていない状態にします。</p> <p>On : <input type="button" value="Num Lock"/> が押された状態にします。</p>
Gate A20 Option (ゲートA20の取扱方法の設定)	<p>ゲートA20は、1MBより上のメモリをアクセスするときに使用します。ゲートA20のサポート方法を選択してください。キーボードコントローラのかわりにチップセットによるサポートを選択すると、処理速度が高くなります。</p> <p>Normal : キーボードコントローラによるサポート</p> <p>Fast : チップセットによるサポート</p>
Typematic Rate Setting (キーボードの設定)	<p>[Typematic Rate]と[Typematic Delay]の設定を変更します。</p> <p>Disabled : Typematic Rate、Typematic Delayを固定値(6文字/秒、250ms)に設定します。</p> <p>Enabled : 任意の値に変更します。</p>
Typematic Rate (Chars/Sec) (キーリピート回数の設定)	<p>1秒間のキーリピート回数を選択します。</p> <p>6/8/10/12/15/20/24/30文字/秒</p>
Typematic Delay (Msec) (ストローク間隔の設定)	<p>最初のキー入力から次のキー入力を受け付けるまでの時間を選択します。</p> <p>250/500/750/1000</p>
Security Option (パスワード入力の設定)	<p>パスワードの入力を要求するタイミングを選択します。(  p.95 Passwordの設定 )</p> <p>Setup : CMOS Setupユーティリティ実行時にパスワードを要求します。</p> <p>System : システム起動時にパスワードを要求します。</p>
OS Select (For DRAM > 64MB) (OSのメモリサイズの設定)	<p>64MB以上のメモリを使用する場合のOSを選択します。</p> <p>Non-OS2 : OS/2以外のOSを使用します。</p> <p>OS2 : OS/2を使用します。</p>

## Advanced Chipset Features

### Advanced DRAM Control 1サブメニュー画面

Auto Configuration (チップセットの設定)	初期設定[Auto]のまま使用します。
SDRAM RAS Active Time	初期設定[6T]のまま使用します。
SDRAM RAS Precharg Time	初期設定[3T]のまま使用します。
RAS to CAS Delay	初期設定[3T]のまま使用します。
Dram Backgroung Command	初期設定[Delay 1T]のまま使用します。
LD-Off Dram RD/WR Cycles	初期設定[Delay 1T]のまま使用します。
Write Recovery Time	初期設定[1T]のまま使用します。
VCM REF To ACT/REF Delay	初期設定[9T]のまま使用します。
VCM ACCT-ACT/REF Delay	初期設定[8T]のまま使用します。
Early CKE Delay 1T Cntrl	初期設定[Normal]のまま使用します。
Early CKE Delay Adjust	初期設定[1ns]のまま使用します。

### Advanced DRAM Control 2サブメニュー画面

Mem Command Output Time (チップセットの設定)	初期設定[Delay 1T]のまま使用します。
SDRAM/VCM CAS Latency	初期設定[SPD]のまま使用します。
SDRCLK Control	装着されているメモリのタイミングが表示されます。
SDWCLK Control CS#/CKE	装着されているメモリのタイミングが表示されます。
SDWCLK Control MA/SRAS	装着されているメモリのタイミングが表示されます。
SDWCLK Control DQM/MO	装着されているメモリのタイミングが表示されます。
EGMRCLK Control	装着されているメモリのタイミングが表示されます。
EGMWCLK Control	装着されているメモリのタイミングが表示されます。
One Page/Channel Control	初期設定[Normal]のまま使用します。

System BIOS Cacheable (システムBIOSのキャッシュ設定)	システムBIOSのキャッシュを設定します。 Disabled : キャッシュしません。 Enabled : キャッシュします。
Video RAM Cacheable (ビデオBIOSのキャッシュ設定)	ビデオBIOSのキャッシュを設定します。 Disabled : キャッシュしません。 Enabled : キャッシュします。
Memory Hole at 15M-16M (メモリ空間の設定)	メモリ空間の一部を外部に開放するかを設定します。 Disabled : 開放しません。 Enabled : 15M-16Mの空間を開放します。
AGP Aperture Size	4 8 16 32 64 128 256MB
PCI Delay Transaction (PCIバスマスタの設定)	初期設定[Enabled]のまま使用します。
Flash BIOS Protection (BIOS書き換え設定)	Disabled : 可能です。 Enabled : 禁止します。

## Integrated Peripherals

### SIS 630 OnChip IDE Deviceサブメニュー画面

IDE Primary Master PIO IDE Primary Slave PIO IDE Secondary Master PIO IDE Secondary Slave PIO (IDEの動作モードの設定)	IDE装置ごと動作モードを設定します。 Auto : 自動設定します。 Mode0/1/2/3/4 : 動作モードを指定します。
Primary Master Ultra DMA Primary Slave Ultra DMA Secondary Master Ultra DMA Secondary Slave Ultra DMA (Ultra DMAの設定)	HDDをUltra DMAで使用するか設定します。 Disabled : 動作しません。 Auto : 自動設定します。
IDE Burst Mode (バースト転送の設定)	HDDのバースト転送を設定します。 Disabled : バースト転送を禁止します。 Enabled : バースト転送します。
IDE HDD Block Mode (ブロック転送の設定)	HDDのブロック転送を設定します。 Disabled : ブロック転送を禁止します。 Enabled : HDDの仕様に従ってブロック転送します。

## SIS 630 OnChip PCI Deviceサブメニュー画面

SIS-7018 AC97 AUDIO ( オンボードオーディオの設定 )	メインボードのサウンド機能を使用するかを設定します。 Auto : 自動設定します。 Disabled : 使用しません。
SIS-7013 S/W Modem ( MRモデムの設定 )	MRモデムを使用するかを設定します。 Auto : 自動設定します。 Disabled : 使用しません。
SIS-900 10/100M ETHERNET ( オンボードネットワークの設定 )	メインボードのネットワーク機能を使用するかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。

## Super IO Deviceサブメニュー画面

Onboard FDC Controller (FDCの設定)	メインボード上のFDDコントローラを使用するか設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard Serial Port 1 (シリアルポートの設定)	シリアルポートで使用するリソースを設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4,2F8/IRQ3,3E8/IRQ4,2E8/IRQ3 Auto : 自動設定します。
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートで使用するリソースを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 3BC/IRQ7,378/IRQ7,278/IRQ5
Parallel Port Mode (パラレルポートの動作モードの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。 SPP : 標準モードです。 EPP,ECP,ECP+EPP : 指定したモードで動作します。
ECP Mode Use DMA (パラレルポートのDMAの設定)	ECPモード時に使用するDMAチャンネルを設定します。 1/3 : 指定したチャンネルを使用します。
Game Port Address (ゲームポートの設定)	メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 201 209 : 設定したアドレスを使用します。
Midi Port Address (MIDIの設定)	メインボードのMIDIで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 330 300 : 設定したアドレスを使用します。
Midi Port IRQ (MIDIの設定)	メインボードのMIDIで使用するIRQ信号を設定します。 5 10
USB Controller (USB 対応周辺機器の設定)	USB 対応周辺機器の使用の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効です。 Enabled : 有効です。
USB Keyboard Support (USB対応キーボードの設定)	USB対応のキーボードを使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Power Failure Recovery (再起動時の電源設定)	電源スイッチを押さずに、AC電源が供給時に起動するかどうかを設定します。 Off : 起動しません。 Always On : 起動します。



System Share Memory Size (ビデオメモリの設定)	メインメモリの一部をビデオメモリとして使用するサイズを設定します。 2 4 8 16 32MB
---	--

## Power Management Setup



WindowsNT4.0では「PM Wake Up Eventsサブメニュー画面」以外の設定は機能しません。

「Wake Up On LAN」、「Power On By Modem」および「Power On by Alarm」は、使用できない場合があります。

省電力に関する設定は、Windowsでの設定が優先されます。

Video Off Option	ビデオ信号を停止するタイミングを選択します。 Always On : ビデオ信号を停止しません。 Suspend -> Off : 省電力機能が働いている時に停止します。
Video Off Method (ビデオ信号の設定)	ビデオ信号を停止する方法を設定します。 Blank Screen : ビデオ信号をブランク信号にします。DPMS Supportedなどの省電力機能に対応していないディスプレイを使用する場合に選択します。 V/H SYNC+Blank : 垂直/水平同期信号を停止し、ビデオ信号をブランク信号にします。 DPMS Supported : DPMSに従ってビデオ信号を停止します。
MODEM Use IRQ (モデムカードのIRQ通知)	モデムカードが装着されているときに、モデムで使用するIRQチャンネルを設定します。この設定をすることにより、省電力モード時にモデムより復帰することができます。 NA : モデムカードを使用しません。 3/4/5/7/9/10/11 : カードのIRQチャンネルを指定します。
HDD Off After (HDDモータの停止時間の設定)	HDDのモータを停止する時間を設定します。 Disabled : HDDを停止しません。 1 ~ 15Min : 停止時間を選択します。
Power Button Override (電源OFFの設定)	電源OFFのタイミングを設定します。 Instant Off : 4秒未満電源スイッチを押した時に、電源OFFになります。 Delay 4 Sec : 4秒以上電源スイッチを押した時に、電源OFFになります。

## PM Wake Up Eventsサブメニュー画面

Wake On Lan (ネットワークからの起動設定)	電源が切れている時に、ネットワークからの信号により、電源を入れるかを設定します。AC電源が切れると無効になります。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Power On by Modem (モデムからの起動設定)	電源が切れている時に、シリアルポートに接続したモデムからの信号により、電源を入れるかを設定します。AC電源が切れると無効になります。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Power On by Alarm (自動電源ONの設定)	電源が切れている時に、設定した日時で電源を入れるかを設定します。AC電源が切れると無効になります。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Month Alarm	「Power ON by Alarm」で[Enabled]を選択した場合に、日付けと時間を設定します。 NA : 設定した日付/時間に毎月電源が入ります。 1 ~ 12 : 1月 ~ 12月を設定します。
Day of Month Alarm	1 ~ 31日を設定します。
Time (hh:mm:ss) Alarm	時間を設定します。

## CPU Setup

CPU Clock Ratio Jampless (CPUクロックの表示)	本機に搭載されているCPUクロックを自動設定します。初期設定[By H/W]のまま使用します。
--	---



CPU Clock Ratio Jamplessの設定値を変更しても実際には、本機に搭載されているCPUクロック以外には変更されません。

## BIOSの設定値

CMOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておく  
と便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

### ■Standard CMOS Features

項目	購入時の設定				変更内容			
	IDE Primary		IDE Secondary		IDE Primary		IDE Secondary	
Access Mode								
Cylinder								
Head								
Precomp								
Landing Zone								
Sector								
Drive A	None	720k,3.5in.	1.44MB,3.5in.	2.88M,3.5in.	None	720k,3.5in.	1.44MB,3.5in.	2.88M,3.5in.
Drive B	None	720k,3.5in.	1.44MB,3.5in.	2.88M,3.5in.	None	720k,3.5in.	1.44MB,3.5in.	2.88M,3.5in.
Floppy 3Mode Support	Disabled		Drive A		Disabled		Drive A	
Video	EGA/VGA	CGA40	CGA80	MONO	EGA/VGA	CGA40	CGA80	MONO
Halt On	All Errors	No Errors	All,But Keyboard		All Errors	No Errors	All,But Keyboard	
	All,But Diskette		All,But Disk/Key		All,But Diskette		All,But Disk/Key	

### ■Advanced BIOS Features

項目	購入時の設定								変更内容							
Anti-Virus Protection	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
CPU Internal Cache	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
External Cache	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
CPU L2 Cache ECC Checking	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Processor Number Feature	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Quick Power On Self Test	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
First Boot Device	(				)				(				)			
Second Boot Device	(				)				(				)			
Third Boot Device	(				)				(				)			
Boot Up Floppy Seek	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Boot Up NumLock Status	Off				On				Off				On			
Gate A20 Option	Normal				Fast				Normal				Fast			
Typematic Rate Setting	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Typematic Rate (Chars/Sec)	6	8	10	12	15	20	24	30	6	8	10	12	15	20	24	30
Typematic Delay (Msec)	250		500		750		1000		250		500		750		1000	
Security Option	Setup				System				Setup				System			
OS Select (For DRAM>64MB)	Non-OS2				OS2				Non-OS2				OS2			

## ■Advanced Chipset Features

項目	購入時の設定								変更内容							
System BIOS Cacheable	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Video RAM Cacheable	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Memory Hole at 15M-16M	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
AGP Aperture Size	4	8	16	32	64	128	256	MB	4	8	16	32	64	128	256	MB
Flash BIOS Protection	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			

## ■Integrated Peripherals

### SIS 630 OnChip IDE Deviceサブメニュー画面

項目	購入時の設定								変更内容							
IDE Primary Master PIO	Auto	0	1	2	3	4			Auto	0	1	2	3	4		
IDE Primary Slave PIO	Auto	0	1	2	3	4			Auto	0	1	2	3	4		
IDE Secondary Master PIO	Auto	0	1	2	3	4			Auto	0	1	2	3	4		
IDE Secondary Slave PIO	Auto	0	1	2	3	4			Auto	0	1	2	3	4		
Primary Master Ultra DMA	Disabled				Auto				Disabled				Auto			
Primary Slave Ultra DMA	Disabled				Auto				Disabled				Auto			
Secondary Master Ultra DMA	Disabled				Auto				Disabled				Auto			
Secondary Slave Ultra DMA	Disabled				Auto				Disabled				Auto			
IDE Burst Mode	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
IDE HDD Block Mode	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			

### SIS 630 OnChip PCI Deviceサブメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容			
SIS-7018 AC97 AUDIO	Auto				Disabled			
SIS-7013 S/W Modem	Auto				Disabled			
SIS-900 10/100M ETHERNET	Enabled				Disabled			

## Super IO Device サブメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容			
Onboard FDC Controller	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
Onboard Serial Port 1	Disabled	3F8/IRQ4			Disabled	3F8/IRQ4		
	2F8/IRQ3	3E8/IRQ4	2E8/IRQ3		2F8/IRQ3	3E8/IRQ4	2E8/IRQ3	
Onboard Parallel Port	Disabled		3BC/IRQ7		Disabled		3BC/IRQ7	
	378/IRQ7		278/IRQ5		378/IRQ7		278/IRQ5	
Parallel Port Mode	SPP	EPP	ECP	ECP+EPP	SPP	EPP	ECP	ECP+EPP
ECP Mode Use DMA	1		3		1		3	
Game Port Address	Disabled		201	209	Disabled		201	209
Midi Port Address	Disabled		330	300	Disabled		330	300
Mide Port IRQ	5		10		5		10	

項目	購入時の設定					変更内容				
USB Controller	Disabled		Enabled			Disabled		Enabled		
USB Keyboard Support	Disabled		Enabled			Disabled		Enabled		
Power Failure Recovery	Off		Always On			Off		Always On		
System Share Memory Size	2	4	8	16	32	2	4	8	16	32

# ■Power Management Setup

項目	購入時の設定								変更内容							
Video Off Option	Always On				Suspend->Off				Always On				Suspend->Off			
Video Off Method	Blank Screen				V/H SYNC+Blank				Blank Screen				V/H SYNC+Blank			
MODEM Use IRQ	NA	3	4	5	7	9	10	11	NA	3	4	5	7	9	10	11
HDD Off After	Disabled				( )				Disabled				( )			
Power Button Override	Instant Off				Delay 4 Sec				Instant Off				Delay 4 Sec			

## PM Wake Up Eventsサブメニュー画面

項目	購入時の設定								変更内容							
Wake On Lan	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Power On by Modem	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Power On by Alarm	Disabled				Enabled				Disabled				Enabled			
Month Alarm	NA				( )				NA				( )			
Day of Month Alarm	( )				( )				( )				( )			
Time (hh:mm:ss) Alarm	( )				( )				( )				( )			

# こんなときは

困ったときに  
警告メッセージが表示されたら

# 困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

## コンピュータ本体の不具合



制限

電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

### 現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

### 確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.11「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


### 現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。


### 確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

起動時の自己診断テスト終了後( OSの起動中 )に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。エラーメッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.127「警告メッセージが表示されたら」

起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.127「警告メッセージが表示されたら」



BIOSの設定が正常でない可能性があります。「CMOS Setupユーティリティ」で設定値を初期設定値に戻してください。

 p.94「設定値をもとに戻すには」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

#### 現象


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

#### 確認と対処

「CMOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.95「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値キーで数値を入力できません。

 p.44「キーボードを使う」

万一、パスワードを忘れた場合は、販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

#### 現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER

#### 確認と対処

起動ディスクなどシステムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.120「HDDの不具合」

#### 現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。

#### 確認と対処

 +  +  を押してリセットします。

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

**現象** 「CMOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

**確認と対処** 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

## 省電力機能に関する不具合

**現象** 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない


**確認と対処** 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

## キーボードの不具合

**現象** 数値キーを押しても数値が入力されない。

**確認と対処** 数値キーは  の状態により機能が変わります。

 p.44「キーボードを使う」

**現象** どのキーを押しても応答がない。

**確認と対処** キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.11「コンピュータの設置」

マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。


アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.38「電源の切り方」

**現象** キートップにある文字や記号が入力できない。

**確認と対処** 日本語キーボードドライバの特性により、キートップに刻印されている一部の文字は入力できません。

 p.44「キーボードを使う」

Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネル」-「システム」アイコン(Windows2000/WindowsNT4.0は、「キーボード」アイコン)をダブルクリックして確認します。

WindowsMe : 106日本語(A01)キーボード( Ctrl+英数 )

Windows98 : 106日本語(A01)キーボード( Ctrl+英数 )

Windows2000 : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2  
キーボード

WindowsNT4.0 : PC/AT106日本語(A01)キーボード

## マウスの不具合

### 現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

### 確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.11「コンピュータの設置」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.38「電源の切り方」

### 現象

OSやアプリケーションソフトでマウスカーソルが表示されない。

### 確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.11「コンピュータの設置」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

### 現象

マウスポインタの動きが悪い。

### 確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.130「マウスのお手入れ」

## ディスプレイの不具合


### 現象

使用中に何も表示されなくなった。

### 確認と対処

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはマウスを操作してください。電源ランプ点滅時は、電源スイッチを押すと復帰します。

 p.64「省電力機能」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認してください。

 p.11「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

ピープ音が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

### 現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

### 確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。Windows Me/Windows 98の場合はSafeモードで、Windows 2000/Windows NT 4.0の場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Safeモードでの  
起動（Windows  
Meの場合）

WindowsMeをSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、WindowsMeを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に **Ctrl** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されたら、「Safe mode」を選択し、**Enter** を押します。

Safeモードでの  
起動（Windows  
98の場合）

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**Enter** を押します。

VGAモードでの  
起動（Windows  
2000の場合）

Windows2000をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常のモードでWindowsが起動します。  
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「VGAモードを有効にする」を選択し、**Enter** を押します。

VGAモードでの  
起動 (Windows  
NT4.0の場合)

1

Windows NT4.0をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。

2

「オペレーティングシステムの起動」が表示されたら「Windows NT・・・[VGA mode]」を選択します。

## FDDの不具合

### 現象

FDに正常にアクセスできない。

### 確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥  
デバイスの準備ができていません。  
[OK]

A:¥にアクセスできません。  
デバイスの準備ができていません。  
[再試行]      [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。  
今すぐフォーマットしますか？  
[はい]      [いいえ]

使用しているFDが、本機で利用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。


 p.53「1.25MBのFDを使用する」

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「CMOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期設定値となっているか確認してください。

起動ディスクなどシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

**現象** FDに書き込みできない。


**確認と対処** ライトプロテクトされていないか確認します。  
 p.52「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

**現象** FDDから異常な音がする。

**確認と対処** 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## HDDの不具合

**現象** それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

**確認と対処** HDDに問題が発生している可能性があります。「CMOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。  
 p.99「Standard CMOS Features」

**現象** 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

**確認と対処** ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。



## CD-ROMドライブの不具合

### 現象

セットしたCDにアクセスできない。

### 確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがいないか確認してください。

コンピュータに添付されていたCD-ROM(「ユーティリティCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとCD-R/CD-RWメディアとの相性によりアクセスできない可能性があります。

### 現象

セットしたCDが読み込めない。

### 確認と対処

CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレーヤー」が標準で添付されています。

### 現象

音楽用CDの音が聞こえない。

### 確認と対処

ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## アプリケーションソフトの不具合

### 現象

アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

### 確認と対処

過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

### 現象

アプリケーションソフトが起動しない。

### 確認と対処

アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

## メモリの不具合

- 現象**                      メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違うている。
- 確認と対処**              購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## 周辺機器の増設に関する不具合

- 現象**                      周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。
- 確認と対処**              増設した周辺機器が対応するコネクタに正しく装着されているか確認してください。
- 増設した周辺機器を取り外して正しく動作するか確認してください。正しく動作する場合は、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

## プリンタの不具合

- 現象**                      印刷できない。
- 確認と対処**              プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。
- プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

## スピーカの不具合

- 現象**                      システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。
- 確認と対処**              内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## FAXモデムの不具合 (FAXモデム機能内蔵モデル)

**現象** 「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

**確認と対処** WindowsMe/Windows98/Windows2000では、「コントロールパネル」の次の項目でモデムに関する事項を確認してみてください。モデムに問題がある場合はエラーメッセージが表示されます。

- ・ WindowsMeの場合

「モデム」アイコン 「検出結果」タブのモデム( COM3 )を選択して、[詳細]をクリックします。

- ・ Windows98の場合

「モデム」 「検出結果」タブのモデム( COM3 )を選択して、[詳細情報]をクリックします。

- ・ Windows2000の場合

「電話とモデムのオプション」 「モデム」タブ [プロパティ] 「診断」タブの[モデムの照会]をクリックします。

**現象** インターネットへ接続できない

**確認と対処** モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。

「ダイヤルアップネットワーク」 「ダイヤルのプロパティ」で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号、市外局番、トーンやパルスの設定も確認します。

次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。

- ・ WindowsMe/Windows98/WindowsNT4.0の場合

「コントロールパネル」 「モデム」 [プロパティ] 「接続」タブの「接続オプション」で「 トーンを待ってからダイヤルする 」のチェックを外します。

- ・ Windows2000の場合

「コントロールパネル」 「電話とモデムのオプション」 「モデム」タブ [プロパティ] 「ダイヤルの管理」で「 発信音を待ってからダイヤルする 」のチェックを外します。

ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

- ・ 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
- ・ 大文字と小文字をきちんと区別しているか。
- ・ 数字とアルファベットを間違えていないか。たとえば、数字の0 とアルファベットのO。
- ・ ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
- ・ パスワードとメールパスワードを混同していないか。

ネームサーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバのIPアドレスを確認します。

・ WindowsMeの場合

- ①「ダイヤルアップネットワーク」「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ②「ネットワーク」タブ [TCP/IP設定]をクリックしてネームサーバアドレスを確認します。

・ Windows98の場合

- ①「ダイヤルアップネットワーク」「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
- ②「サーバーの種類」タブ [TCP/IP設定]をクリックして、「ネームサーバアドレス」を確認します。

・ WindowsNT4.0の場合

- ①「ダイヤルアップネットワーク」[その他]をクリックして、「エントリとモデムのプロパティの編集」を選択します。
- ②「サーバー」タブ [TCP/IPの設定]でネームサーバアドレスを確認します。

・ Windows2000の場合

- ①「ネットワークとダイヤルアップ」「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ②「ネットワーク」タブ 「インターネットプロトコル」[プロパティ]でDNSサーバアドレスを確認します。

原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合は、プロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときはこの方法で接続できる場合もあります。

次の理由で、接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。

- ・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- ・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- ・ プロバイダのサーバが停止している。

#### 現象

V.90通信方式で通信できない。

#### 確認と対処

回線状況によって、V.90通信方式で接続できない場合があります。V.90通信方式のほかにはx2方式がありますが、x2方式のモデムとは、V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.90通信方式で接続することができます。

PBX回線では、V.90通信方式では接続できません。V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。

#### 現象

V.90、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

#### 確認と対処

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

#### 現象

V.90、V.34通信方式対応モデムと接続しているのに、遅い通信速度で接続してしまう。

#### 確認と対処

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

# 警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF0000H-FFFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、内蔵リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。
CMOS CHECKSUM ERROR	CMOS RAMの設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。CMOS Setupユーティリティを実行してください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	CMOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。CMOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDD初期化ができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。意図的にキーボードなしで使用する場合には、CMOS Setupユーティリティで、エラーチェックの設定を"Halt On: All But Keyboard(キーボード関連以外のエラーチェックを行う)"に設定します。これで、キーボードが接続されていなくてもコンピュータは正常に起動します。
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。

警告メッセージ	説明
Hardware Monitor found an error, enter SMART ALARM SETUP for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。



# 付 録

お手入れ方法やHDDを購入時の状態に戻す方法、仕様などについて説明しています。

# お手入れ

## 本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

## マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

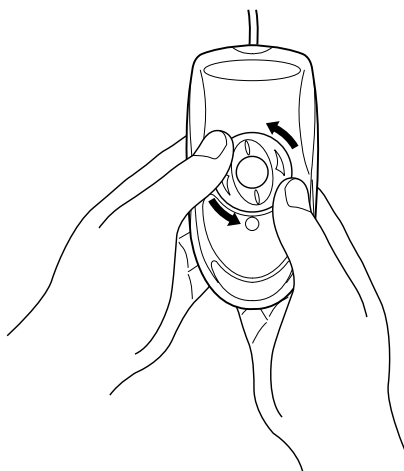
クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームをはずします。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2

マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。  
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水で良くすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。  
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームを元どおりに取り付けます。  
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

# ATコマンドの使用

## (FAXモデム機能搭載モデル)

### ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムには、モデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

本機で使えるATコマンドの一覧(Manual.HTM)は、添付の「リカバリCD-ROM」(Windows2000は、「リカバリCD-ROM Disk2」)の「MODEM」フォルダに登録されています。(英文)

### ATコマンドの使用

通信ソフトウェアでモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

WindowsMeの場合

「モデム」アイコン [プロパティ] 「接続」タブ [詳細設定] 「追加設定」

Windows98/WindowsNT4.0の場合

「モデム」アイコン [プロパティ] 「接続」タブ [詳細] 「追加設定」

Windows2000の場合

「電話とモデムのオプション」アイコン 「モデム」タブ [プロパティ] 「詳細」タブ 「追加設定」

現 象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=V34」(V34)または「AT+MS=V90」(V.90) 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは、2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。

例:ATMOX3

# FAXモデムカードを取り外すには

## (FAXモデム機能搭載モデル)

本機には、FAXモデムカードが装着されています。FAXモデムカードを取り外したい場合は、次の方法で取り外すことができます。

### 作業時の注意

FAXモデムカードを取り外す際は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



警告

ACアダプタコネクタにACアダプタを接続したまま作業を行わないでください。感電、火傷の原因となります。

本書で指示されている以外の分解や改造をしないでください。けがや感電、火災の原因となります。



注意

作業は、本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。

作業は、電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



制限

本機は、電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ずACアダプタコネクタからACアダプタケーブルを外してください。

コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。

作業直前までコンピュータを使用していた場合は、コンピュータ内部が高温になっています。内部が冷えるまで約10分以上お待ちください。

コンピュータ背面に接続されているケーブル類をすべて外してください。

コンピュータを縦置きに使用している場合は、必ず縦置きスタンドを取り外し、本体を横置きにしてから作業を行ってください。

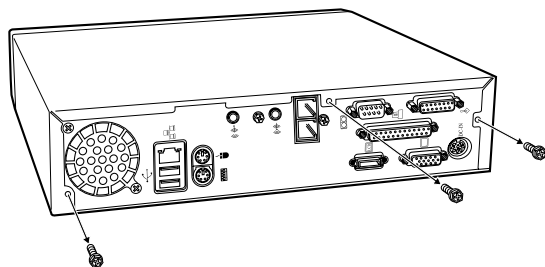
コンピュータ内部のケースや基盤には、突起があります。作業の際には、けがをしないよう注意してください。

作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃してから作業を行ってください。

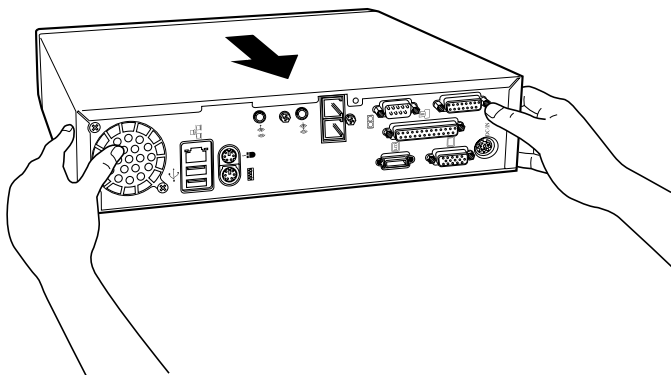
## FAXモデムカードの取り外し

FAXモデムカードの取り外し方は、次のとおりです。

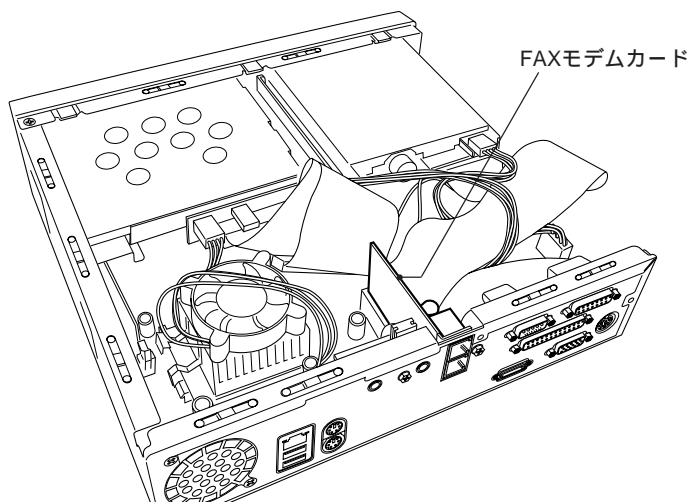
- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。  
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 電源コード、キーボードケーブルなどすべてのケーブル類をコンピュータ本体から外します。
- 3 コンピュータを縦置きで使用している場合は、縦置きスタンドを取り外し、本体を横置きにします。
- 4 本体カバーを外します。
  - ① 本体背面のネジ(3本)を外します。



- ② 本体カバーを背面側にずらして取り外します。



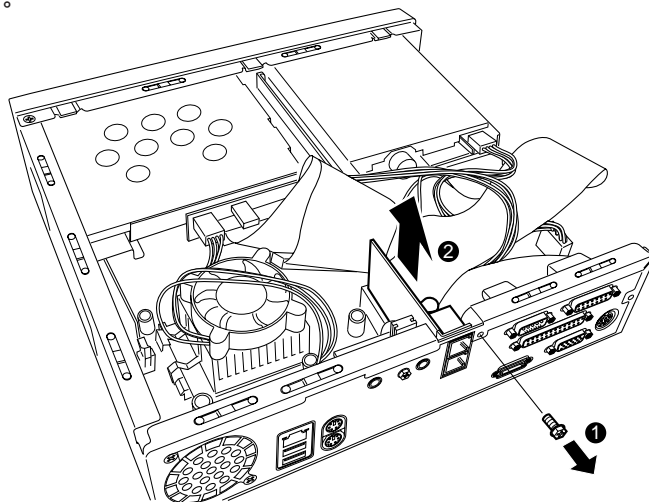
## 5 FAXモデムカードの位置を確認します。



## 6 FAXモデムカードを取り外します。

- ① 本体とFAXモデムカードを固定しているネジ(1本)を外します。
- ② FAXモデムカードをスロットから引き抜きます。

FAXモデムカードの端子部に無理な力がかからないよう、ゆっくり引き抜きます。



## 7 本体カバーを装着します。

本体カバーを装着し、ネジ(3本)で固定します。

## 8 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

# HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因でWindowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなった場合などにHDDを購入時の状態に戻してみてください。

## 必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のメディアなどが必要です。

リカバリCD-ROM

Windowsと各種デバイスドライバが登録されているリカバリCD-ROMです。

マウスドライバCD-ROM

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD-ROM

「VirusScan for Windows」と「Adobe Acrobat Reader」が登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるOSおよびシステム構成によって異なります。



## HDDを購入時の状態に戻す順番


次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。


### リカバリの実行 ( p.140 )


リカバリCD-ROMを使用して、HDDのフォーマット作業およびWindowsと一部のデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。


### Windowsのセットアップ

購入時に行った「Windowsのセットアップ」をもう一度行います。お客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。

WindowsMeインストールモデル  p.21

Windows98インストールモデル  p.24

Windows2000インストールモデル  p.28


WindowsNT4.0インストールモデル  p.33


### マウスドライバのインストール ( p.141 )


マウスドライバCD-ROMを使用して、マウスドライバのインストールを行います。


### モデムドライバのインストール (FAXモデム機能搭載モデルのみ)

リカバリCD-ROMを使用して、モデムドライバのインストールを行います。

WindowsMeインストールモデル  p.143


Windows98インストールモデル  p.144


Windows2000インストールモデル  p.145


WindowsNT4.0インストールモデル  p.147


### セットアップ終了後の作業

セットアップ終了後の各種設定などを行います。

WindowsMeインストールモデル  p.22

Windows98インストールモデル  p.26

Windows2000インストールモデル  p.30

WindowsNT4.0インストールモデル  p.37

### 各種ドライバのインストール ( p.148 )

プリンタやUSB機器などを接続している場合は、デバイスドライバのインストールを行います。

## HDDを購入時の状態に戻す場合の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の事項を確認してから作業を始めてください。

### ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成がつぎのようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD

Cドライブ : HDD(基本MS-DOS領域)

Dドライブ : CD-ROMドライブ

### リカバリの実行

リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。

Dドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にHDD上の重要なデータをFDなどにバックアップしておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。

「リカバリCD-ROM」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。

「リカバリCD-ROM」で、Windowsのみをインストールすることはできません。

リカバリ実行中は、「リカバリCD-ROM」を抜かないでください。

本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機購入後に周辺機器を取り付けた場合は、手順が異なる場合があります。正常にHDDを購入時の状態に戻せない場合は、購入時のシステム構成に戻してみてください。

本機の購入時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsをインストールしています。リカバリを実行するとファイルシステムは、購入時のファイルシステムに上書きされます。

WindowsMe : FAT32ファイルシステム

Windows98 : FAT32ファイルシステム

Windows2000 : FAT32ファイルシステム

WindowsNT4.0 : FAT16ファイルシステム

## デバイスドライバのインストール

WindowsMe/Windows98/WindowsNT4.0インストールモデルの場合

FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合やプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「リカバリ実行 - 手順9」の再起動時に「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。ここではインストールを行わないので「キャンセル」をクリックします。これらのデバイスドライバのインストールは、次のように行ってください。

- ・ FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合  
p.137の順番に従って「モデムドライバ」のインストールを行います。
- ・ プリンタなどの周辺機器を接続している場合  
「HDDを購入時の状態に戻す」作業後に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行います。

Windows2000インストールモデルの場合

FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合やプリンタなどの周辺機器を接続している場合は、「Windowsのセットアップ」終了後に「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されます。ここではインストールを行わないので「キャンセル」をクリックします。これらのデバイスドライバのインストールは、次のように行ってください。

- ・ FAXモデム機能搭載モデルを使用している場合  
p.137の順番に従って「モデムドライバ」のインストールを行います。
- ・ プリンタなどの周辺機器を接続している場合  
「HDDを購入時の状態に戻す」作業後に添付のマニュアルを参照してデバイスドライバのインストールを行います。

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器が接続されている場合に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。このような場合には、添付の「リカバリCD-ROM」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

WindowsMe : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS  
 Windows98 : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS  
 Windows2000 : C:\¥I386  
 WindowsNT4.0 : C:\¥I386

セットアップ時の  
手順について  
( WindowsMe/  
Windows98  
インストールモデル)

WindowsMe/Windows98インストールモデルではリカバリ実行後の「Windowsの  
セットアップ」手順が一部異なります。「お知らせの確認」画面は表示されませ  
ん。

セットアップ終了後「セットアップ終了後の作業」の次の作業は、必要に応じて行ってください。これ  
らの作業は、購入後電源を初めて入れたときに行う「Windowsのセットアップ」  
後に一度行っているため、通常は必要ありません。

WindowsMeインストールモデルの場合

WindowsMe起動ディスクの作成

Windows98インストールモデルの場合

Windows98起動ディスクの作成

Windows2000インストールモデルの場合

セットアップブートディスクの作成

WindowsNT4.0インストールモデルの場合


HDD領域の作成



弊社製以外のBIOSを使用すると、HDDを購入時の状態に戻すことができなくな  
ります。

## リカバリの実行

次の手順でHDDを購入時の状態に戻します。

- 1 CD-ROMドライブから起動させるため、CD-ROMドライブの起動優先順位を変更します。  
通常は、CMOS Setupユーティリティの「Advanced BIOS Features」-「First Boot Device」を「CD-ROM」に変更します。システムの構成により異なる場合があります。  
 p.100「Advanced BIOS Features」
- 2 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 3 「Save & Exit Setup」で「Yes」を選択し、CMOS Setupユーティリティを終了します。コンピュータが起動します。
- 4 「EasyRestore」画面が表示されたら、「続ける」をクリックします。
- 5 「警告」画面が表示されます。「はい」をクリックします。
- 6 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、15分程かかります。  
「リカバリCD-ROM」が2枚添付されている場合は、画面の指示に従って「リカバリCD-ROM」の2枚目をセットし、リカバリの実行を続行します。
- 7 「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD-ROM」を抜いて「再起動」をクリックします。
- 8 コンピュータの再起動時に「CMOS Setupユーティリティ」を起動して「Advanced BIOS Features」の順番をもとに戻します。
- 9 コンピュータが起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。

## マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。  
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。  
もし自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:¥SETUP」と入力し[OK]をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。  
これでマウスドライバのインストールは終了です。

## FAXモデムドライバのインストール

( WindowsMeインストールモデル )

FAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [ スタート ] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、[ 更新 ] をクリックします。
- 5 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で、「次の新しいハードウェアが見つかりました: PCI Card」と表示されていることを確認し、「ドライバの場所を指定する」にチェックマークを付けて [ 次へ ] をクリックします。
- 6 「検索場所の指定」にチェックマークを付けて「D:¥MODEM¥ME」と入力し [ 次へ ] をクリックします。
- 7 「どのドライバをインストールしますか?」と表示されたら「更新したソフトウェア」にチェックマークを付けて [ 次へ ] をクリックします。
- 8 「デバイス用のドライバファイルの検索:」と表示されたら [ 次へ ] をクリックします。
- 9 「新しいハードウェアのインストールが完了しました。」と表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD-ROM」を抜き、[ 完了 ] をクリックします。
- 10 [ スタート ] - 「Windowsの終了」をクリックし、「再起動」にチェックマークを付けて [ OK ] をクリックし、Windowsを再起動します。  
Windowsが再起動したら、FAXモデムドライバのインストールは終了です。

## FAXモデムドライバのインストール

(Windows 98 インストールモデル)

FAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [ スタート ] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、[ 更新 ] をクリックします。
- 5 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で、「次の新しいドライバを検索しています: PCI Card」と表示されていることを確認し、[ 次へ ] をクリックします。
- 6 「検索方法を選択してください。」と表示されたら、「使用中のデバイスに最適な...」にチェックマークを付けて [ 次へ ] をクリックします。
- 7 「検索場所の指定」にチェックマークを付けて「D:¥MODEM¥98」と入力し、[ 次へ ] をクリックします。
- 8 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」と表示されたら [ 次へ ] をクリックします。
- 9 「...ソフトウェアがインストールされました。」と表示されたらCD-ROMドライブから「リカバリCD-ROM」を抜き、[ 完了 ] をクリックします。
- 10 「ディスクの挿入」画面が表示された場合は、「ファイルのコピー元」に「D:¥MODEM¥98」と入力して [ OK ] をクリックします。
- 11 [ スタート ] - 「Windowsの終了」をクリックし、「再起動する」にチェックマークを付けて、[ OK ] をクリックし、Windowsを再起動します。  
Windowsが再起動したら、FAXモデムドライバのインストールは終了です。



## FAXモデムドライバのインストール

( Windows2000インストールモデル )

FAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD-ROM」2枚目をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [ スタート ] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、[ デバイスマネージャ ] をクリックします。
- 5 「その他のデバイス」の下にある「PCI Device」をダブルクリックします。
- 6 「PCI Deviceのプロパティ」画面で「ドライバ」タブをクリックし、[ ドライバの更新 ] をクリックします。
- 7 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら [ 次へ ] をクリックします。
- 8 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」にチェックマークを付けて [ 次へ ] をクリックします。
- 9 「ハードウェアの種類」から「モデム」を選択して [ 次へ ] をクリックします。
- 10 [ ディスク使用 ] をクリックし、「製造元のファイルのコピー元」に「D:¥MODEM¥2K」と入力し、[ OK ] をクリックします。続けて [ 次へ ] をクリックします。
- 11 「ドライバの更新警告」画面が表示されます。[ はい ] をクリックします。
- 12 「デバイスドライバのインストールの開始」と表示されたら、[ 次へ ] をクリックします。

- 13 「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、[ はい ] をクリックします。
- 14 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブから抜き [ 完了 ] をクリックします。
- 15 「HARM 5600 Modemのプロパティ」画面で [ 閉じる ] をクリックします。
- 16 「システム設定の変更」画面で「今コンピュータを再起動しますか?」と表示されたら [ はい ] をクリックします。  
Windowsが再起動するとFAXモデムドライバのインストールは終了です。

## FAXモデムドライバのインストール

(Windows NT 4.0 インストールモデル)

FAXモデムドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [ スタート ] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「D:\¥MODEM¥NT¥SETUP」と入力し、[ OK ]をクリックします。
- 4 「Welcome」画面で[ Next ]をクリックします。
- 5 「COM3」にチェックが付いた状態で[ Next ]をクリックします。
- 6 「Modem System Information」画面で[ Next ]をクリックします。
- 7 「新しいモデムのインストール」画面で「モデムを一覧から選択するので検出しない」にチェックマークを付けて[ 次へ ]をクリックします。
- 8 「製造元」から「Modem Vendor」を選択し、「モデム」から「HAMR 5600 Modem」を選択して[ 次へ ]をクリックします。
- 9 「どのポートにインストールしますか?」と表示されたら「選択したポート」にチェックが付いた状態で「COM3」を選択し[ 次へ ]をクリックします。
- 10 「モデムは正常にセットアップされました。」と表示されます。[ 完了 ]をクリックします。
- 11 「モデムのプロパティ」が表示されます。[ 閉じる ]をクリックします。
- 12 CD-ROMドライブから「リカバリCD-ROM」を抜き、「Yes, I want to restart my computer now.」(コンピュータを再起動します。)にチェックが付いた状態で[ Finish ]をクリックします。  
Windowsが再起動したら、FAXモデムドライバのインストールは終了です。

## 各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



### 参考

#### インストールが必要なドライバの例

お客様がお使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

USB対応機器を使用する場合	: 機器に添付のドライバ
プリンタを使用する場合	: プリンタに添付のドライバ

# HDD領域の変更

## MS-DOS領域の種類

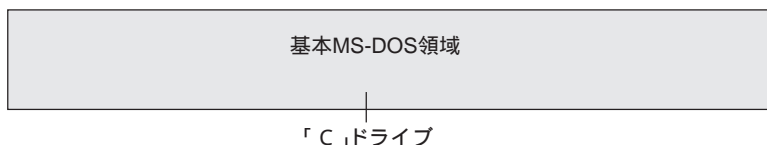
MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合には必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

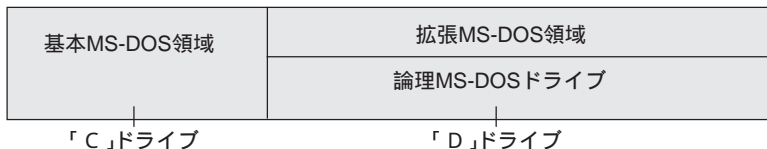
基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。(Windows NT4.0の場合、Cドライブの最大サイズは、2GBです。)これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

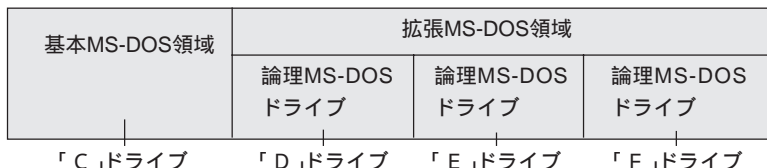
基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



## HDD領域の変更

HDD領域の変更は、MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいときなどに行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を作成しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめFDなどにバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

### MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除します。

### MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で作成します。

### MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

**FDISKコマンド** HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、「リカバリCD-ROM」に登録されています。

**大容量ディスクサポートとは** FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。  
大容量ディスクサポートを行わない場合(FAT16ファイルシステム)の基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBです。そのため2GBを超えるHDDに対しては複数のドライブ作成が必要です。FAT32ファイルシステムでは、2GBを超えたHDDでも1つのHDD領域で使用できます。



本機購入時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsがインストールされています。リカバリを実行するとファイルシステムは、購入時のファイルシステムに上書きされます。

WindowsMe	FAT32ファイルシステム
Windows98	FAT32ファイルシステム
Windows2000	FAT32ファイルシステム
WindowsNT4.0	FAT16ファイルシステム

## 既存領域の削除

### 起動方法

次の方法でWindowsを起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 コンピュータの電源を入れて、「CMOS Setupユーティリティ」を実行します。  
 p.91「CMOS Setupユーティリティの起動」
- 2 CD-ROMドライブから起動させるため、CD-ROMドライブの起動優先順位を変更します。  
通常は、CMOS Setup ユーティリティの「Advanced BIOS Features」-「First Boot Device」を「CD-ROM」に変更します。システムの構成により、異なる場合があります。  
 p.100「Advanced BIOS Features」
- 3 「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 4 「Save & Exit Setup」で「Yes」を選択し「CMOS Setupユーティリティ」を終了します。
- 5 コンピュータが再起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックします。
- 6 画面左上にコマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。

## 既存領域の 削除


- 1 コマンドプロンプト (A:¥>) が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。  
FDISK
- 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y / N)」と表示されます。 または  を押して  を押します。  
通常は、「Y」を選択します。ただし、Windows NT 4.0 をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 3 処理メニューから「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選択します。 を押してから  を押します。
- 4 「MS-DOS 領域または拡張 MS-DOS ドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。  
基本 MS-DOS 領域は、拡張 MS-DOS 領域があると削除できません。「拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブ」「拡張 MS-DOS 領域」「基本 MS-DOS 領域」の順番で削除することができます。  
ここでは基本 MS-DOS 領域を削除する手順を説明します。(基本 MS-DOS 領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)  
 を押してから  を押します。
- 5 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して  を押します。
- 6 削除する領域のボリュームラベルを入力し、 を押します。  
Windows 98 インストールモデルの初期設定は、次のとおりです。  
WINDOWS\_98 ( \_ は  +  を押します。)  
そのほかのインストールモデルには、ボリュームラベルは設定されていません。そのまま  を押します。
- 7 確認メッセージが表示されたら、 を押して  を押します。  
基本 MS-DOS 領域が削除されます。
- 8  を押して「FDISK オプション」画面に戻ります。  
領域を作成する場合は、「MS-DOS 領域の作成 (p. 184) 手順 4」に移ります。



- 9 FDISKを終了する場合は、 を押します。
- 10 コマンドプロンプト (A:¥>) が表示されます。  
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

## MS-DOS領域の作成

### 基本MS-DOS 領域の作成

- 1 「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。  
 p.151「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト (A:¥>) が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。  
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。  
 または  を押して  を押します。  
通常は、「Y」を選択します。ただしWindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 4 処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから  を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから  を押します。
- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。  
最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は2GBです。

7 を入力した場合と を入力した場合で次のように作業が異なります。

を入力して を押した場合

基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから  +  +  を押して、コンピュータを再起動します。

大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。ただし、作成した領域にWindowsをインストールする場合は、フォーマットを行う必要がありません。Windowsのインストールを行ってください。

 p. xxx「リカバリの実行」

大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。

を入力して を押した場合

を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。


8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。 を押してから を押します。

10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。 を押してから を押します。


11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

# 拡張MS-DOS領域と 論理MS-DOS ドライブの 作成

- 1 2 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 4 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま を押します。
- 1 5 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 6 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、を押します。
- 1 7 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 8 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。  
これでMS-DOS領域の作成は終了です。Windowsをインストールする領域(Cドライブ)以外の領域は、再起動後にフォーマットを行ってください。  
 p. 156「MS-DOS領域のフォーマット」

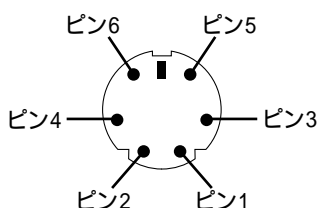
## MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

- 1 「リカバリCD-ROM」を使って、コンピュータを起動します。  
 p.151「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト( A:¥> )が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)  
FORMAT D: (    はスペースを意味します。)
- 3 「フォーマットしますか( Y / N )? 」と確認のメッセージが表示されたら、  
 を押して  を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。  
必要のない場合は、そのまま  を押します。コマンドプロンプト( A:¥> )に戻り、フォーマットの処理が終了します。

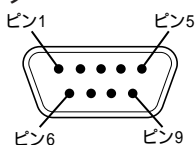
# コネクタ仕様

キーボード・マウスコネクタ



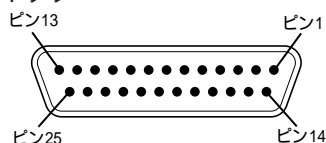
ピン番号	信号	意味
1	DATA	データ信号
2	Reserved	システム予約
3	GND	接地
4	+5V	電源
5	CLK	クロック
6	Reserved	システム予約

シリアルコネクタ



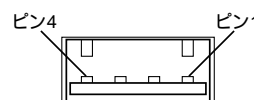
ピン番号	信号	意味
1	DCD	キャリア検出
2	RXD	受信データ
3	TXD	送信データ
4	DTR	データ端末レディ
5	GND	各信号線の接地
6	DSR	データセットレディ
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可
9	RI	被呼表示

パラレルコネクタ



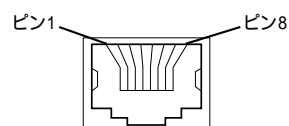
ピン番号	信号	意味
1	$\overline{\text{STROBE}}$	D0 ~ D7 有効信号
2	D0	Data Bit0 (印字データ)
3	D1	Data Bit1
4	D2	Data Bit2
5	D3	Data Bit3
6	D4	Data Bit4
7	D5	Data Bit5
8	D6	Data Bit6
9	D7	Data Bit7
10	$\overline{\text{ACK}}$	データ受信
11	BUSY	データ受信不可
12	PE	用紙切れ
13	SLCT	プリンタセレクト
14	$\overline{\text{AUTFD}}$	オートフィードモード
15	$\overline{\text{ERROR}}$	エラー
16	$\overline{\text{INIT}}$	初期化
17	SLCTIN(DIR)	プリンタセレクトイン (データ方向)
18 ~ 25	GND	接地

USBコネクタ

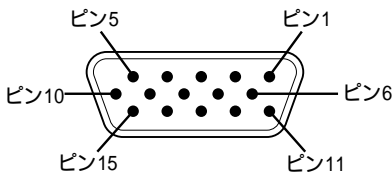


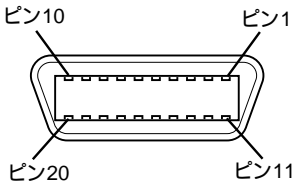
ピン番号	信号	意味
1	VCC	電源
2	- Data	信号
3	+ Data	信号
4	Ground	グラウンド

LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)

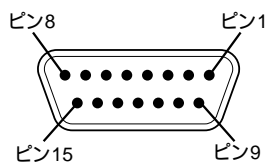


ピン番号	信号	意味
1	TD +	送信データ +
2	TD -	送信データ -
3	RD +	受信データ +
4	NC	未接続
5	NC	未接続
6	RD -	受信データ -
7	NC	未接続
8	NC	未接続

VGA コネクタ  	ピン番号	信号	意味
	1	Red Video	赤映像信号
	2	Green Video	緑映像信号
	3	Blue Video	青映像信号
	4	NC	未使用
	5	GND	接地
	6	Red GND	接地 ( 赤 )
	7	Green GND	接地 ( 緑 )
	8	Blue GND	接地 ( 青 )
	9	NC	未使用
	10	GND	接地
	11	NC	未使用
	12	DDCSTD	DDC データ
	13	HSYNC	水平同期信号
	14	VSYNC	垂直同期信号
	15	DDCSLK	DDC クロック

DFP コネクタ  	ピン番号	信号	意味
	1	TX1+	TMDS1+
	2	TX1-	TMDS1-
	3	SHLD1	TMDS1 シールド
	4	SHLDC	TMDS クロックシールド
	5	TXC+	TMDS+ クロック
	6	TXC-	TMDS- クロック
	7	GND	接地
	8	+5V	電源
	9	No Connect9	未使用
	10	No Connect10	未使用
	11	TX2+	TMDS2+
	12	TX2-	TMDS2-
	13	SHLD2	TMDS2 シールド
	14	SHLD0	TMDS0 シールド
	15	TX0+	TMDS0+
	16	TX0-	TMDS0-
	17	No Connect 17	未使用
	18	HPD	ホットプラグ検出
	19	DDC_DAT	DDC2 B データ
	20	DDC_CLK	DDC2 B クロック

ゲームポート / MIDI コネクタ



ピン番号	信号	意味
1	+5V DC	電源
2	Button 4	ジョイスティック A ボタン 1
3	Position 0	ジョイスティック A の X 座標
4	GND	接地
5	GND	接地
6	Position 1	ジョイスティック A の Y 座標
7	Button 5	ジョイスティック A ボタン 2
8	+5V DC	電源
9	+5V DC	電源
10	Button 6	ジョイスティック B ボタン 1
11	Position 2	ジョイスティック B の X 座標
12	MIDI OUT	MIDI 送信データ
13	Position 3	ジョイスティック B の Y 座標
14	Button 7	ジョイスティック B のボタン 2
15	MIDI IN	MIDI 受信データ

# 機能仕様一覧

CPU		Pentium III プロセッサ	Celeronプロセッサ
	セカンドキャッシュメモリ	256KB	128KB
メモリ	ROM	BIOS 他 256KB EEP ROM( Award BIOS, SIS/VGA BIOS )	
	メインメモリ	最大512MBまで増設可能	
	ビデオキャッシュメモリ	メインメモリ使用( 初期設定8MB )	
ビデオコントローラ		SIS 630 AGP set integrated 2D/3D	
サウンドコントローラ		SIS 630 Integrated AC'97	
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵 3モード対応1.44MB/1.25MB/720KB	
	内蔵HDD	IDE HDD1基内蔵 Ultra ATA/66対応	
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵	
インタフェース	パラレルインタフェース	1( セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート )	
	シリアルインタフェース	1( RS-232C準拠 D-SUB 9ピン )最大115.2Kbps	
	VGAインタフェース	1( アナログRGB D-SUB 15ピン )	
	DFPインタフェース	1 (デジタル RGB 20ピン)	
	キーボードインタフェース	1( IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン )	
	マウスインタフェース	1( IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン )	
	サウンドインタフェース	本体前面: マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1 本体背面: ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、 ゲームポート/MIDIコネクタ×1	
	USBインタフェース	4( 本体前面×2、本体背面×2 )	
	ネットワークインタフェース	1 (RJ-45 10 Base-Tおよび100 Base-TX自動認識)	
	FAXモデムインタフェース	1( RJ-11 V.90対応 )FAXモデム機能搭載モデル	
ドライブベイ	3.5型オープンベイ	1( FDDで使用済み )	
	CD-ROM専用ベイ	1( CD-ROMドライブで使用済み )	
	HDD専用ベイ	1( HDDで使用済み )	
スピーカ		内蔵(モノラル)	
DM( Desktop Management I/F ) 対応		あり	
ハードウェアモニタ機能 対応		あり	
カレンダー時計		内蔵( 内蔵電池によりバックアップ )	
電源容量		88W	
入力電圧		AC 100 V ± 10% 50/60 Hz	
温湿度条件		温度: 10 ~ 35 湿度: 20 ~ 80%( ただし、結露しないこと )	
外形寸法		本体: 約281( 幅 )×275( 奥行 )×70( 高さ )mm( 突起部除く )	
重量		本体: 約4.5Kg( 本体のみ ) ACアダプタ: 約0.5Kg	
消費電力		待機時消費電力24W( 最大88W )	

キーボード	日本語対応コンパクト106キーボード
マウス	ホイール付きPS/2マウス



# 用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

## ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

## AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

## BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。また「CMOS Setupユーティリティ」で設定する内容を含める場合もあります。

**使用例** BIOSの設定を行ってください。  
=「CMOS Setupユーティリティ」を実行して設定を変更してください。

**類義語** CMOS RAM

## CMOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。CMOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

## CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

## DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

## DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

## FAT16ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報( File Allocation Table )を16ビットに拡張したファイルシステム。FAT16ファイルシステムでは、基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBで、その容量を超えるHDDに対しては、複数のドライブの作成が必要です。

## FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報( File Allocation Table )を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます( FAT16では2GBまで )。

I/Oポート( Input/Outputポート )

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法( インタフェース )を定めた規格の一種です。HDDだけでなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

**【使用例】** IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

**【使用例】** サウンドカードではIRQ7を使用します。

ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のことです。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータ送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バスの一種。一般的に採用されている拡張バスです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。

高速性を要求される拡張カードに使用されます。

RAM( Random Access Memory )

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM( Read Only Memory )

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

## RS-232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

## SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

## USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。キーボードやマウス、プリンタなどUSB対応品が増えています。

## Ultra ATA/66

IDEインタフェース上において66MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

**使用例** Ultra ATA/66対応ケーブル

## VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能です。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

## アカウント

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

## アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

**使用例** HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きします。

## アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

## アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

**使用例** HDDアクセスランプ

## アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

## アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

**使用例** メモリアドレス、I/Oポートアドレス

## アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

## インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストール

プログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

**【使用例】** サウンドドライバをインストールします。

## インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

**【使用例】** IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

## オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

## オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

## 解像度

画面表示の細かさのことです。

**【使用例】** 1024×768ドットの解像度で表示します。

## 外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

**【類義語】** キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

## カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

**【使用例】** マウスカーソル

## 起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

**【類義語】** 立ち上げる。

## キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

**【使用例】** メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

## コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

**【使用例】** 次のコマンドを入力してください。

## サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

## システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

**使用例** システムを起動する。= コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

## ターミナルアダプタ(TA)

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

## ダイヤルアップ接続

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するためにプロバイダに接続することを言います。

## ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

## ディスプレイ

表示装置のことです。

**類義語** CRTディスプレイ、モニタ

## ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

**使用例** 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

## 内部キャッシュ

CPUから周辺チップへアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリ。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

## バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

**使用例** PCIバス、AGPバス

## パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

**使用例** パラメータを設定します。

## ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

## ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいので熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)ものがあります。

## ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムや

データの総称です。

**【使用例】** ファイルをコピーする。データ  
ファイルを作成する。

### 物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

### ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

### プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

### プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

**【類義語】** ソフトウェア、アプリケーション  
ソフト

### プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同

士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

### ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

### メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

### メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

**【使用例】** メインメモリは128MBです。

### メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

### メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

## モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

## リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

**類義語** システム資源

## ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

**類義語** ログイン/ログアウト

## 論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

# 索引

## 英数字

1.25MBフォーマットFD .....	53
2HD(FDD) .....	49
2DD(FDD) .....	49
3.5 型FDD .....	9

## A

Adobe Acrobat Reader .....	5, 6, 7, 8
ATコマンド .....	132

## B

BIOS ( CMOS ) .....	89
CMOS Setupユーティリティの起動 .....	91
CMOS Setupユーティリティの終了 .....	97

## C

CapsLock .....	45
CD-ROM .....	56
CD-ROMイジェクトホール .....	9
CD-ROMイジェクトボタン .....	9
CD-ROMドライブ .....	9
~の不具合 .....	121
CD-ROMドライブのアクセスランプ .....	9
CMOS RAM .....	90
COAラベル .....	2

## D

DFDコネクタ .....	10, 87
DIMM ( メモリ ) .....	
~の不具合 .....	123

## F

FAT16ファイルシステム .....	53
FAT32ファイルシステム .....	53
FAXモデム .....	68
~カードの取り外し .....	133

~の不具合 .....	124
-------------	-----

インターネットに接続する .....	70
--------------------	----

FD ( フロッピーディスク ) .....	49
------------------------	----

FDD ( フロッピーディスクドライブ ) .....	49
-----------------------------	----

~の不具合 .....	119
-------------	-----

FDDアクセスランプ .....	9
------------------	---

FDDイジェクトボタン .....	9
-------------------	---

FDISKコマンド .....	150
-----------------	-----

FORMATコマンド .....	156
------------------	-----

## H

HDD ( ハードディスクドライブ ) .....	54
---------------------------	----

~の不具合 .....	120
-------------	-----

~領域の変更 .....	149
--------------	-----

HDDアクセスランプ .....	9
------------------	---

## I

ISDN .....	71
------------	----

Internet Explorer .....	80
-------------------------	----

## L

LANコネクタ .....	10
---------------	----

LINEモジュラジャック .....	10
--------------------	----

## M

MIDIコネクタ .....	10
----------------	----

MS-DOS領域のフォーマット .....	156
-----------------------	-----

MS-IME .....	45
--------------	----

## N

NumLock .....	45
---------------	----

## O

Outlook Express .....	80
-----------------------	----



## P

Passwordの設定 .....	95
PBX .....	68

## S

Safeモード .....	59
Scroll Lock .....	45
Service Pack6aのインストール .....	36
Supervisor Password .....	95

## U

URL .....	81
USBコネクタ .....	9, 10, 86
User Password .....	95

## V

VGAモード .....	59
VirusScan for Windows .....	87

## W

WindowsMeのセットアップ	
~のセットアップ .....	21
~起動ディスクの作成 .....	23
Windows98	
~のセットアップ .....	24
~起動ディスクの作成 .....	27
Windows2000のセットアップ .....	28
Windowsキー .....	40
WindowsNT4.0	
~のセットアップ .....	33
~ Service Pack6aのインストール .....	36

## 50音順

### あ

アイコン .....	(10)
アウトLOOKエクスプレス .....	80

### い

インターネットに接続するには .....	70
インターネットエクスプローラ .....	80

### う

ウィルス .....	87
------------	----

### お

お気に入り（ホームページ） .....	81
お手入れ .....	130

### か

解像度の変更 .....	59
拡張MS-DOS領域 .....	149

### き

キーボード .....	44
~の接続 .....	13
~の不具合 .....	115
キーボードコネクタ .....	10
キーロック表示ランプ .....	44
起動方法 .....	151
基本MS-DOS領域 .....	149
機能キー .....	44
機能仕様一覧 .....	160
休止状態 .....	64
強制取り出し（CD-ROM） .....	58

### く

クリック .....	48
------------	----

け		タスクバー .....	(10)
警告メッセージ .....	127	タブ .....	(10)
ゲームポート/MIDIコネクタ .....	10	ダブルクリック .....	48
こ		て	
コネクタ仕様 .....	157	ディスプレイ	
コンピュータウイルス .....	87	~の接続 .....	13
		~の不具合 .....	117
さ		デスクトップ .....	(10)
サウンド機能 .....	84	電源スイッチ .....	9
		電源の入れ方 .....	17
し		電源の切り方 .....	38
シリアルコネクタ .....	10, 86	電源ランプ .....	9
仕様 .....	160	添付ソフトウェア .....	5
省電力機能 .....	64	電話回線 .....	68
~に関する不具合 .....	114	~への接続 .....	14
す		と	
数値キー .....	44	ドラッグアンドドロップ .....	48
スーパーバイザパスワード .....	95	な	
スクロール .....	48	内蔵スピーカ .....	9
スタンバイ .....	64	に	
スピーカ .....	9	日本語入力システム .....	45
~の不具合 .....	123	入力キー .....	44
せ		ね	
セットアップ		ネットワーク	
WindowsMeインストールモデル .....	21	~機能 .....	85
Windows98インストールモデル .....	24	~に接続する .....	14
Windows2000インストールモデル .....	28		
WindowsNT4.0インストールモデル .....	33	は	
セットアップブートディスクの作成 .....	31	ハードディスクドライブ (HDD) .....	54
た		~の領域の変更 .....	149
ダイヤルアップ接続 .....	73	~の不具合 .....	120
大容量ディスクサポート .....	150		

パスワード ..... 95

Supervisor Password ..... 95

User Password ..... 95

パラレルコネクタ ..... 10, 85

ハングアップ ..... 41

バックアップ

FD ..... 52

HDD ..... 54

## ひ

表示色の変更 ..... 59

## ふ

フォーマット (FD) ..... 51

プリンタの不具合 ..... 123

フロッピーディスクドライブ (FDD) ..... 49

フロッピーディスク (FD) ..... 49

プロバイダ ..... 72

## へ

ヘッドフォン出力コネクタ ..... 9

## ほ

ボタン ..... (10)

## ま

マイク入力コネクタ ..... 9

マウス ..... 48

~のお手入れ ..... 130

~の接続 ..... 14

~の不具合 ..... 116

## め

メール受信を使う ..... 82

メモリ (DIMM)

~の不具合 ..... 123

## ゆ

ユーザーパスワード ..... 95

ユーティリティCD ..... 136

## ら

ライトプロテクト (FD) ..... 52

ライン出力コネクタ ..... 10

ライン入力コネクタ ..... 10

## り

リカバリCD-ROM ..... 136

リセット ..... 41

## ろ

論理MS-DOSドライブ ..... 149

Memo

Memo

付  
録

## Memo

## ご注意

---

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

## 使用限定について

---

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

## 本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

---

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。が、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

## 電波障害について

---

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 漏洩電流自主規制について

---

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

## 高調波ガイドライン適合品

---

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

## 商標について

---

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Celeron は Intel Corporation の商標です。

Adobe Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated( アドビシステムズ社 )の登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

# エプソン販売 株式会社



大豆油インキを  
使用しています。



このユーザーズマニュアルは  
再生紙を使用しています。

C77124001 00.10-00.05(SO)